

演劇レーベル Bö-tanz 第 13 回公演台本(1997 年)

J.H.

-JOYRIDE ON THE HIGHWAY-

クソゲーの最後にしちゃ、上等すぎる幕切れじゃないか？

作・はなださとし

登場人物

女(佐藤恵美子)

つい最近 JH(バーチャル・レーシング・ゲーム)に現れた女。何となく影がありそう。

鷹山

JH ではかなりの古株か。いまでこそエンジンパワーの足りない 86 なんかを乗り回しているが、その過去の姿は宮内のハイパーVV のパイロット。スピード恐怖症。たぶん一年前のシェイクダウン(宮内製作エボリューション(協))での大事故が彼の心に深い傷を負わせしまったのだろう。

ホーリー

スカイライン GT-R(R32)で JH を疾走する走り屋タイプの女。鷹山のパイロット時代を知っている稀有なお人。別に鷹山にほれているわけではないが、ついちょっかいを掛けてしまいがち。

天城

中学生お馬鹿三人組の大將格。RX-7 を駆る怖いもの知らず。性格がきつく、身勝手なところがある。

伊東

中学生お馬鹿三人組の No. 2。天城がいないと何もできないガキという感じか。

下田

中学生お馬鹿三人組の慰み者。親はパチンコ屋経営なので脱税でがっぼりだ。それがこの少年の人格形成に微妙な影響を与え続けていることは紛れもない事実。役どころとして殺人 VV の餌食になるのは火を見るより明らか。

宮内

JH の VV(ヴァーチャル・ヴィークル)チューナー。エンジンチューンだけでなく、空力に関するモデリング(レンダリング)のエキスパート。JH 華やかかりし頃は、鷹山とともに C1 クレーギーレース(C1 をいかに早く回れるかを競うけったいなレース)に燃えまくっていた。

かずえちゃん

宮内のエンジニア。宮内とのつきあいも長い。もの静かなタイプだが、VV のドライビングテクニックは神業的との噂あり。殺人 VV 撃退のためのエボリューション(協)(フル・チューンド)のパイロットに抜擢され(鷹山が腑抜けのためだが)、最前線で殺人 VV と対決することになる。

男(原田純一)

恵美子の幼馴染み。コンピューター好きでちょいと暗め。その昔 JH でぶいぶい言わせていたという噂も……

殺人 VV

前照灯も点けずに JH を走りまくる艶消しの黒一色に塗られた車。プレイヤー達の VV に激突しそれを完膚無きまで破壊する。

登場人物の VV (ヴァーチャル・ヴィークル)

女(佐藤恵美子)

ポシェット

色は人々の度肝を抜くビビッドな緑色。排気量・空力ともに他の VV に比べるべくもないが、しかしこのマシンにはだれも知らない謎が目白押しだ。

鷹山

カローラレヴィン(86)

言わずと知れた走り屋さん愛用のマシン。ただ、エンジンパワーや足回りに弱点を持っている。白黒ツートンというのもまた彼らしいと言えば彼らしい。現在では「気合だけでトップに立てるといものじゃない」という人生哲学を心底から気付かせてくれる逸品。

ホーリー

スカイライン GT-R(R32)

R32_ひとつ旧型のスカイライン。速い…反則と言われるほど速い。いわゆる公道の王者とされている。

天城

RX-7(FC-3S)

現行型の FD ではなく FC。天城のこだわりが感じられる。ロータリーエンジンの官能的サウンドに痺れる輩多し。スカイラインやシルビア以上に「走り屋」度の高し。

伊東

シルビア(S13)

色は闇夜に映えるシルキースノーパールホワイト。「走り屋」車の代表格。

下田

フェアレディ Z(Z32)

VV であっても、値段が値段なのでそんじょそらのガキには手の届かない代物。色は黄色。

宮内

アルシオーネ SVX

カッコいいのか悪いのか…とにかく、見た目のインパクトは強い。

かずえちゃん

MR2(SW20)

彼女が 2 シーターに一人で乗っている姿はなぜか凜とした印象を与えるようだよ。

男(原田純一)

インテグラ(中古車)

どうでもいいけど FF だっていいじゃない。その上こいつは VV じゃなく本物の車。

対殺人 VV マシン

ランサー・エボリューション IV(当然極限まで改造 by 宮内)

ハイパーなスタイリングが超カッコいい。三菱なのも戦闘兵器っぽくて良い。

殺人 VV

車種不明… 色は艶消し黒。んでもって地ベタにくつつくほどの車高調。

Diary... 1st June

舞台の上には女が一人。
この女の六月一日の日記がこの物語の始まりである。

女 夢を見た。

明け方。薄紫に煙る窓。皺くちやのシーツの上でわたしは目覚めた。
気怠く、そして脳の奥底がちょっとだけ痺れた感じ・・・
夢と現実の狭間で・・・
夢を、今の今まで見ていた夢を反芻する。

・・・そこは真夜中の首都高。たぶんそうだと思う。
曲がりくねった高架。威圧的なコンクリートウォール。夜露に濡れ黒々としたア
スファルト。
水銀ランプの明かりが深い霧の中でぼやけいて、すべての形あるものの輪郭
をあいまいにしていた・・・
わたしはハンドルを握り、乳白色の海の中を滑るように泳ぐように走っていた。

地鳴りに似た振動にアスファルトが微かに震える。
雷鳴？ どこか遠くの空で・・・
わたしは左右の空を確かめようとする。でも、四方はミルク色の霧。
不意に遠近感を失って倒れそうになった刹那、また雷鳴が遠くで響く。

・・・いや、遠くの雷鳴なんかじゃない。この音はカーステレオからだ。
微かなノイズに混じって、女の歌声が漏れ始めている。
か細く、呟くように・・・

<Joyride/Kristen Barry>

*I can hear the wheels underneath my bed
But I'm not myself, this is not real...*

まるで今にも泣き出しそうで・・・

*Such a shame, there's a lot of things that I could do
But I'm riding in the back of my own car...*

そして、女が吐き捨てるように歌う。

Let me go...

“Let me go...” 「もう、行かせて・・・」 わたしは確か何処かで・・・あなたにそう言った・・・ 確かにそう言った・・・

そう思った瞬間、何かがわたしの中で弾けた・・・
まるで突然の落雷。精神の靄が消し飛んだみたい。
仮死状態の記憶が蘇生する・・・
この曲は“Joyride”、わたしのお気に入りだ。こんな夜に、偶然にもラジオから流れてくるなんて・・・

霧の中に情報標識板が現れる。
「初台出口」
ここは首都高 4 号線_そんなこと端から分かった。この先には中央高速道が繋がっている。

女の歌声が強くなる。わたしも声を合わせる。

That joyride, was my life
That joyride, was my life...

わたしはアクセルをちょっとだけ強く踏み込んでそのランプを直進する。わたしの行くべき方向に向かって・・・ あなたがそして私が生まれ育ったあの町へ・・・

That joyride, was my life...

もうすぐ高速の料金所だ。この緩やかな右カーブを曲がり切れれば・・・

That joyride, was my life...

料金所を過ぎたら、あの街まで一直線。

That joyride, was my life...

緩やかな右カーブを曲がり切れれば・・・ このカーブを曲がり切れれば・・・

・・・!?

不意にカーステレオが死んだように沈黙する。
わたしは狂ったかのようにブレーキペダルを踏みつける。
タイヤの悲鳴。ゴムの灼ける匂い。
車がゆっくりと滑るようにテールを振りドリフトしていくのが、目を瞑っていても分かる。

どうして?
わたしは心の中で叫ぶ。
緊急停止した呼吸。そして、早鐘の心拍。
腕の筋肉も両足の腱もすべて鋼鉄のように硬直している。

車は反時計まわりに四分の一回転したところで幸運にも静止する。

ゆっくりと息を吸い込むと湿った霧が肺の中に侵入してくる。
まぶたを開いて霧の向こうを凝視する……

カーブの先には……
料金所は無かった。
水銀灯の光も……
道すらもなかった。

道路はここで消えていた。
大鎌で断ち切られたかのように途切れていた。

この先にあるのは……
ただの暗闇。
そして深い霧……

カーステレオから女の悲しげが歌声が再び漏れ始める。

*But you left it be
Can't avoid the bottle
People like you make me murderous
That joyride, was my life...*

暗闇の中、私はただ立ち尽くしている……

と、唐突に腹に響くバスドラの規則的なリズムがわき起こる。

それに伴い、照明が煽りながらも眩しいほどに輝き出す。
登場人物のすべてが舞台上に現れている。

「Go!」の合図でその人影が動き出す。
車の運転をモチーフにした均整の取れたその動き。
まるで、アクセルペダ踏みで飛び出す車の加速感。
まるで、ワインディングロードを吸いつくように走るレースカー……

やがて、音響の最後の雄叫びが消え入るとともに
網膜を焼きつくすかと思われた無数のサスペンションライトの明かりが一斉に
フェードアウトする……

そして、痛いほどの闇。

2nd June

舞台の上に女が一人。
女の顔が薄暗い明かりの中に浮かんでいる。
CRT 画面から漏れる明かりのような照明…

女 ……JH、Joyride on the Highway。Internet 上に構築されたヴァーチャル・サーキット…… コースレイアウトは首都高速。わたしは今夜も首都高 2 号目黒線の荏原からエントリーする。(ギアをローに入れ、アクセルを軽く踏み込む)……スタート。

エンジン音が高鳴り、照明が後方へと流れ出す。

女 ……JH、Joyride on the Highway。ただ首都高を正確に模倣しただけの仮想空間。日本中のオタクが何をとち狂ったのか、競いあって造り上げた一大ヴァーチャルワールド。一時は首都高だけでなくそれに繋がる東名や中央道、それに東北道までにも拡大していく勢いだったのに、尻つぼみになってしまった……「ゲーム性が低かった」……それが JH に対しての大方の見解。「レーシングゲームならこれより百倍面白いのが五万とある。」そういつて、みんな去っていったらしい。……でも、わたしは JH を走るのが好き。細部に至るまで正確に模倣された偽物の首都高が好き。紛い物の道路を紛い物の車で紛い物の私が走っている…… なんてね……

一ノ橋 Jct を左折。C1 都心環状の外回りへ入る…… 月曜日の真夜中、走っている車は少ない。……JH、Joyride on the Highway。ほんとに人気がないんだな、このゲーム。今夜このだだっ広いサーキットにログインしてるのは私だけかもしれない…… なんて、一人ごちながら、谷町 Jct を抜ける……

一人だけの Joyride……お気に入りの CD でも聞きながら外環まで行ってみようかな……

女が CD のスイッチを入れると同時に音楽がゆっくりと流れ出す。
と、背後に口をぱくぱくと忙しく動かしている男が現れる。
男が何やら叫びながら(無音)接近し、女の右車線側に滑り込み並走し始める。
女、一瞬男の方を見るが、何事もなかったように前方に視線を移す。
男はなおも口をぱくぱくしながら助手席側の窓を開ける。
女、一瞬男の方を見るが、何事もなかったように前方に視線を移す。
変な笑顔で何か叫んだり、悔しがったり、頼んだりしている。
女、無表情に CD のスイッチを切り、そして「しょうがねえな」って感じで別のスイッチを入れる…… と、突然男(鷹山って名前)の音が響き渡る。

鷹山 ……っから、頼むよ。リアルチャット入れてくれよ。普通ここじゃログインした者同志、楽しくチャットを楽しむもんだろ？ だからさ、頼むよ。リアルチャット・オン！今すぐオン!! ……ったくよ。新参加者がお高く止まってんじゃ…

女 (鷹山の方を向き、にっこり笑って)……リアルチャットシステムはオンになってるわよ。

鷹山 オンって……ありあり？ 何時から？

女 さっきから…

鷹山 ってことは…

女 新参加者がお高く止まっていて、ごめんなさい。

鷹山 それは、ほら、なんていうか…… まっ、忘れてくれ。

女 忘れるわ……(前を向く)

鷹山 そりゃどうもありがとう…… 結構さばさばした性格ね？

女 ……

鷹山 俺もね、結構竹を割った性格なのよ。(何が可笑しいのか笑ったりしてる) ……おまえ、最近よくこのあたり流してるよね？

女 (前を向いたまま)ええ、最近毎晩走るようになった…

鷹山 ……ったく、こんなクソサーキット。最近じゃ閑古鳥でさ。新人なんて入ってきてくれないんだよね。はまってる野郎はみんな心に大きな障害でもありそうなのばっかりで…

女 あなたも？

鷹山 いや、俺はノーマルだよ。いたって健全。心に一点の曇りもないってやつ。(女の車をなめるように眺め)……にしてもすごいよな、お前さんの VV。

女 びーびー!?

鷹山 違う。下唇噛んでヴィーヴィー。

女 ヴィーヴィー…

鷹山 そう。ヴァーチャ・ヴィークルのことを略して VV って呼んでるんだ…… にしても、ホンダポシェットの VV なんて初めて見たよ。それも緑色…

女 変ですか？

鷹山 いや、変とか変じゃないとかの感覚を超越して、逆に「カッコいい」という領域に強引にも踏み込んでしまったという感じだ…

女 よく分からないんですけど…

鷹山 とにかく目立ってるってこと。 ……実はさ、ここ二三日、俺声かけ続けてたんだよ、あんたに…… でも、あんた、リアルチャット入れてないみたいだったから…

女 ……ごめんなさい。

鷹山 謝る必要なんかねーよ。人それぞれだし…… 俺、ただ話してみたかったんだよ…

女 こんな変なのに乗ってんのはどんな野郎かと思って？

鷹山 いや、俺は、ただ・・・ だから・・・

その時、後方からヘッドライトがものすごい勢いで近づいて来たようだ。

女 (バックミラーを見て)・・・ねえ、後ろ!

鷹山、振り返り、すかさずシフトダウンをし加速。滑るように女の前に車線変更する。先ほどの軟派な会話からは想像もつかない機敏な動作である。その二人の脇を猛烈な勢いで二台の車が通りすぎる。

鷹山 (呆然として)発狂してるのかあいつ等?

女 (同じく呆然として)・・・今の何キロぐらい出てるの?

鷹山 ...300 ってどこか。

女 300!?

鷹山 まだいるんだな、ああいうの・・・

(女の横に戻り)しかし、湾岸線ならいざ知らず、霞ヶ関のトンネルに 300 で突っ込んでいくつーのは・・・ あんたも気をつけろよ。たまにあんなのがいるからさ・・・ 貰い事故食らったら、あんたのポシェットなんて簡単にプログラムが弾け飛んでお釈迦だぜ。

女 ...そうね、そうしたら、もう走れなくなっちゃう。

鷹山 ...何、説教くせーこと言ってんだろう、俺。全く JH の鷹ともあろうおひとが・・・

女 タカ?

鷹山 そう、鷹・・・鷹だった・・・ (唐突に)あっ、そうだ! そういや、自己紹介がまだだったな・・・ 俺、鷹山・・・

女 たかやま・・・

鷹山 そうそう、鳥の鷹に・・・ まっ、とりあえず握手、握手・・・(と助手席側の窓を開け、体を伸ばして握手しようとする)

女 (驚いて)た、鷹山さん。危ないって・・・(と後方から一台の爆走車!)・・・鷹山さん後ろ!!

鷹山、振り返り、目つきが変わる。滑るように女の前に車線変更。爆走してきた一台(GT-R)の車が瞬時に減速し、並走する形となる。GT-R の窓が開く。運転しているのは女。ホーリーである。

ホーリー よっ、鷹ちゃん。ナンパか?

鷹山 げっ、ホーリー!!

ホーリー まずいとこ見つかった・・・なんて顔してんじゃねーよ。鷹ちゃーん・・・ ノーマルのハチロクなんか飽きずに転がしちゃって・・・

鷹山 いい車よ、ハチロク・・・

ホーリー どこがあ？
鷹山 あえて言うなら、馬力のないところが…
ホーリー (鼻で笑う)
鷹山 あっ、今鼻で笑ったね、鼻で…
ホーリー あたりめーだろ、骨無し野郎。
鷹山 骨無しじゃありませんー。大人になったんですうー。
ホーリー 何言ってんだ、あほ!
女 あ、あの…
ホーリー (女に気づき)…新入りかい？
女 ええ…
ホーリー 気い付けて走りな。こんなあぶねーのがいるからさ…
鷹山 あぶねーのはそっちだろ!!
ホーリー …おっと、こうしちゃいられねーぜ。さっきすげー勢いでドッグファイトしてたのが通りすぎていったろ？ あいつ等追っかけねーと…
鷹山 追っかけるって…あんたも好き者だね。
ホーリー 久々のお友達って感じだろ？ あんたもついて来るかい？
鷹山 いえ、遠慮させていただきます…
ホーリー そう来ると思った… じゃあな、骨無し! (加速しようとするが、思い止まり女に向かって)…あっ、そうだ。後ろの方からあほ三人組が迫ってるから、貰い事故しねーように気を付けな。

ホーリー爆発的加速で消えていく。

鷹山 全くいけ好かねえ奴。(女に)あいつきつと本名「堀井留子」とか言うんだぜ…
女 …「堀井」はそうかもしれないけど、「留子」は違うんじゃないかな?(と、独りごちるが)…そうだ、あの…あほ三人組って、なに？
鷹山 あほ三人組? …ああ、達の悪いあほガキどもがいてな。このサーキットを我がもの顔で暴れ回ってんの…
女 達の悪いあほガキ…
鷹山 そう… (バックミラーを見て、指で後方を指し示す)ほら、噂をすれば何とやらだ。あぶねーから傍に寄ってな…

鷹山と女、傍に寄る。と、後方から忙しい三人組が近づいてくる。
危ない 14 歳の天城、伊東そして下田である。

下田 ちょっと、天城君やめてよ。
天城 (後ろからガスガス小突いて)もっとアクセル踏み込めよ、下田。
伊東 (一緒に小突いて)そうだ、そうだ! 結構いい VV 乗ってるんだからさ…
下田 伊東君。そんなこと言ったって、スピード出すと怖いでしょ…

天城 怖いだあ? この根性なしがあ! 伊藤、奴の右に入れ!
伊東 「あいがっちゃ」だよーん!

伊東、下田の右に滑り込むと、同時に天城も下田の左側に強引に割り込んで行く。

下田 (怯えつつ左右をきよろきよろ見て)なにするんだよ、君達!?
天城 伊東! 下田を挟め!!
伊東 がってん! …ガスツ!! (つて下田を挟む)
下田 (二人にがっちり挟まれて)なななっ、なにになに…
伊東 地獄のワインディング・ロード!!
天城 時速 200 キロの恐怖!
天・伊 イツツ・ショー・タイム! てな感じで…加速!!

下田をがっちり挟んだまま急加速する。

下田 (怯えて)あぶ、あぶ…
天城 あぶ、あぶってなんだそりゃ、下田?
伊東 左カーブ 130R!!

ワインディング・ロードを下田を挟んだままきゆるきゆる言いながら右に左に駆け抜ける。下田は顔面蒼白。

下田 うわーっ、怖いよー。恐怖で失神しちゃうよ… うっ、ガクツ(と失神するが、それも一瞬)って失神したらほんとにどうするの、君達??
天・伊 余裕あんな、お前。それもこんな時に…
下田 余裕なんかないですう… (前方を凝視し、目を見開く)あっ、天城君! 前!! 前にVVがあ!!!
天・伊 (無表情で)…加速。
下田 うわーっ! ぶつぶぶ、ぶつかるう!!
天・伊 フル・ブレーキ!!

キキーッと減速する二人。慣性で吹っ飛んで行く下田。

下田 のわわわわわわわーっ!! ぶつかるー!!! (ラッキーにも女と鷹山のVVをかわす_短く口笛吹いて、額の汗を拭う)ひゅー、かわせたぜ…(が、反対側のコンクリートウォールが目前に迫っている) どひーっ、コンクリートウォールがあ!! (車体を擦り付けて) ガリガリガリガリ…って、火花散ってるしい… シクシク… (泣いてる)

鷹山 (あほどもの暴挙にとうとう怒り出し)・・・こら、クソガキども! 危険なことはやめろ!

伊東 おっ、タカちゃんじゃん・・・

鷹山 タカちゃん・・・ムッ。お前にタカちゃん呼ばわりされる覚えはない!

天城 いいじゃないの。僕らは JH フリーク。仲間だろ?

鷹山 あのな、JH はお前らみたいな中坊の遊び場じゃないんだ。お前らはプレステでもやってろ、プレステでも・・・

伊東 プレステ・・・

鷹山 お子ちゃまはプレステで充分だろ。

天城 お子ちゃま、お子ちゃまって・・・いいのかい、鷹山ちゃん? そんな見下した態度が俺たち中学生をますます屈折させていくんだぜ・・・

伊東 そうだぜ。そうしてねじ曲がった心を持つ大人になってしまうのさ・・・

鷹山 充分ねじ曲がってるだろ、もう。

天城 おっ、それはそうと、タカちゃん。(人の話を聞いてない) なに、そっちのおねいちゃんは?

鷹山 ん?

伊東 なんなの、なんなの? タカちゃんも隅に置けないな。ひゅーひゅー・・・

鷹山 隅に置けない、ひゅーひゅー・・・って、何時の時代の人だ、お前?

女 あの・・・わたしは・・・

と女、何かを言いかけたところで、下田が泣きながら近寄ってくる。

下田 天城君も伊東君も酷いよ・・・ ぼくの VV の側面がガリガリだよ。もー・・・

天城 なんだよ、下田? まだいたのかよ。

下田 いるよ・・・ もー、どうしてくれるんだよ、この傷・・・ もー、もー・・・

天城 (下田を小突きながら) いいじゃねえか、お前ん家は金持ちなんだからよ。

伊東 (同じく小突きながら) 大枚積んで、直してもらいな!

下田 やめ、やめてよ・・・ もーやだ! ぼくもう帰る!! (と逃げるように退場する)

天城 (追いかけて) くら、待て下田! おい、伊東、行くぞ!

伊東 らじゃー。こいつはお仕置きですな・・・

天城 そうだ。お仕置きだ!

天・伊 きつつーいやつ・・・ じゃあな、タカちゃん!

伊東 あんまり「すげべえ」せんようにの・・・

天・伊 待て、下田あ!

天城・伊東、下田を追いかけ退場。
取り残される二人。

鷹山 あほども… (女に向き直り)…いやさ、あんな変なものいるにはいるんだけど、
出会ったときは路肩によけてやり過ごせばいいから…

左にすっと逸れる女。「あれ」って感じの鷹山。

女 じゃあ私。5号線で和光に抜けるから…(どんどん左に逸れていく)

鷹山 (首を曲げつつ) ちょっと、そりやないでしょ? 折角出会ったのに…

女 (どんどん逸れながら) そうね…

鷹山 (どんどん首を曲げつつ) せめて名前だけでも…

女 …えみこ。じゃあね。(退場)

鷹山 (極限まで首を曲げて) えみこ… また会えるよな? 俺いつもこのあたり流し
てるから。なあ… 行っちゃったか… こんなもんかの。折角勇気だして話し
掛けたっていうのに…

舞台後方にホーリーが飛び出してくる。

ホーリー おい、鷹。今どこにいる?

鷹山 なんだよ。うっせーな… 今ちょっと感傷的なんだからよ…

ホーリー 感傷だか溜腸だか知らねえが、とにかく何処にいたんだよ!

鷹山 …竹橋すぎて神田橋に向かってまーす(ちょっとムツとしてまーす)。

ホーリー だったら、江戸橋を両国方面に来てくれないか?

鷹山 なんで?

ホーリー 事故…

鷹山 お前が?

ホーリー 前走ってた奴。さっき追いかけた…

鷹山 暴走してクラッシュ…良くあることじゃん。お前一人で助けてやれよ…

ホーリー それがさ… ちょいと変なんだ。とにかく早く…

鷹山 はいはい、分かりましたよ。

ホーリー 待ってる。(消える)

鷹山 何なんだよ、一体… あー、面倒くせー…

鷹山退場する。

3rd June

舞台の上に女が一人。

女 ……彼に始めてあったのは自動車教習所の中だった。
私は一人、待合室のソファーに座ってた。次の教習まで時間があったから……
ふと読んで出た雑誌から目を上げると、そこに彼がいた。

舞台後方に男が現れる。

女 彼はくしゃくしゃの紙切れを手に持ってじっと眺めてた。読んでた雑誌に目を戻
そうとして、やめた。なんだか彼の横顔に見覚えがあるような気がして……「誰
だったっけ?」最初は全然思い出せなくて、でもどうしても思い出したくて……
頭の中の引き出し全部空けて引っ掻き回して…… どうでもいい無駄な記憶全
部全部そこら中に放り出しながら……そしたら、やっと見つかった。引き出しの
隅の方にひっそりとそれはあった……
「原田君だ! 中学のときの同級生の…… そうだよ、きっとそうだ!! ほら、面影が
あるでしょ。同じクラスなのにほとんど話したことなかったけど……あれ、名前は
なんて言ったけ? 原田…… 原田…… 確か…… 原田シンジ! って、それはアフ
ロヘアーがとてもオバちゃん臭かたいにしえのおちゃらけ(?)ミュージシャンだ
ろっ!! (頭抱えて)私なに孤独な一人ポケッツコミを展開してるんだろ? それもこ
んなところで…… だから、原田…… 原田……(項垂れて)だめだ、頭の中で原田
シンジが歌ってるよお…… これじゃあ、もう思い出せそうにない。……あっ、でも
何となくシンジに似ているような響きだったような…… シン…… シン…… そうだ、
思い出した!! たしか……
(呼び掛けて)「淳一君。」

男、凝視していた紙切れから視線を上げ、声のした方を見る。

女 やっぱりだ。淳一君でしょ?
男 (不審そうに、女を見る)
女 わたしよわたし。佐藤恵美子……
男 (おどおどして)……さとう?
女 そう、佐藤恵美子。ほら、吉田中学校の時のクラスメイトの……
男 (俯いて、考え込んでしまう)
女 無理もないか…… もう、ずいぶん前の……
男 憶えてるよ。でも、あんまり雰囲気が変わったもんだから……

女 そんな変わったかな・・・
男 (恥ずかしがりながら、ちらりと見る).....
女 やっぱり、こっちの女子大入ってから変わっちゃたよね、わたし。あのね、女子大って言っても、八王子の山ん中の「あってもなくてもいいようなところ」なんだけど、って言ったら学校に失礼か・・・でも、中学の時とは確かに違うよね。あの時はなんて言うか・・・もっと暗くってさ。それに発育不全だったし・・・って、今もそうか。

女、笑いの“間”を取るが、男はあまり乗ってこない。仕方ないから、マシンガントークを続ける・・・

女 ほんと、何年ぶりかしら？
男 ...七年かな？
女 七年かあ・・・七年もあれば人間充分に変われるよね、うんうん(腕組みして頷いている)。でも、淳一君は昔のままだね・・・
男
女 ううん。そういう意味じゃなくて・・・あの頃のように純粹のままですっていうか、なんていうか・・・そんな感じ。
男 いいんだ。実際ぼくはちっとも成長していないんだから・・・
女 そんなことないよ。男っぽくなってるとよ。それに爺臭くなってるとし・・・
男 爺臭い？
女 ごめん、ごめん。どうしてもツツコまにや気が済まん質での・・・でも、ほんとこんな所で突然会っちゃうなんて、奇遇よね。この広い東京の中のこんなちっちゃい自動車学校で・・・免許なんか何時取ってもいいものなのに、偶然にも同じ時に・・・何か運命的なものを感じるわね。
男 運命？
女 そう、運命かもよ・・・なんてね。(粉かけてんのか、私は?) ところで、淳一君は今何段階目なの？
男 ん？ ああ、今日仮免通ったところなんだけど・・・
女 仮免! 私なんかまだ一段階、始めたばかりで一すつとこ。いいなあ。じゃあ、後半分で免許貰えるんじゃない。
男 うん。でも働いてるから夜しか来れないし、それに夜の路上教習の予約はいっぱい・・・
女 えっ、淳一君、就職したんだ・・・
男 うん。専門学校出て、しばらくはぶらぶらしてたんだけど、今年の春に・・・
女 それはご就職おめでとうございます。で、なんて言う会社なの？
男 なんてこと無い小さな会社だよ。・・・それに、後一カ月で山梨の方に転勤なんだ。
女 へー、山梨? 山梨の何処?

男 都留の方なんだけど・・・
女 じゃあ、実家のそばじゃん。親元から通うの？
男 うん。そうなると思う。最初からそういう約束で就職したんだ・・・
女 ふーん・・・（男がさっきから手に持った紙切れを見つめているのに気付き）
に見てるの？
男 ん・・・性格判断。
女 性格判断？
男 さっき受けたんだ。こんな簡単なテストで性格なんて分かっちゃうのかな・・・
女 ねえ、見せて！

女、強引にのぞき込もうとするが、男がその紙をくしゃくしゃに丸めてしまう。あまりの剣幕に驚く女。

男 (女が驚いているのを見て、おどおどする)・・・ご、ごめん。恥ずかしかったから・・・ 見られるのとっても恥ずかしかったから・・・ 今夜、もう帰るから・・・ じゃあ、これで・・・(帰ろうとする)
女 (呼び止めて)淳一君! 明日会えるよね?
男

男、視線も合わせぬままこっくり頷くと逃げ去るように退場する。
立ちつくす女。

女 ...私、何であの時あんなこと言ったんだろう？ 懐かしかったから？ 寂しかったから？ それとも、ただ暇だったから・・・ ねえ、どうして？ 淳一君なんて、私にとってはどうでもいい人だったのに・・・

懐かしむように遠くを見る女。
闇がゆっくりと彼女を包み込んで行く。

4th June

鷹山とホーリーが立ち尽くしている。

鷹山 ……何なんだよ、これ？
ホーリー ……
鷹山 これがVVのなれの果てか？このくすぶった鉄の塊が…
ホーリー 鉄屑…それもプレス機で押し潰されたみたいに…
鷹山 ……俺、長年JHでの事故を見てきたけど、こんなのはお目にかかったことないぜ…
ホーリー 2台の活きのいいVVが連んで走ってるんだと思ってた…このポルシェと後を走る黒いVV…そう見えたんだ…でも、それは間違いだった…
鷹山 間違い？
ホーリー 奴は前のポルシェを破壊しようとしていたんだ。狩りだよ。時速300kmで奴は幾度もポルシェを小突いてた。弄ぶようにね…
鷹山 どうして…
ホーリー 分からない…奴は殺そうとしていたんだよ、ポルシェを…殺意がみなぎってた。黒い車体が憎しみに小刻みに震えていた…
鷹山 憎しんで震える？
ホーリー そう、錯覚なんかじゃない。本当にそう見えたんだ…この両国Jctで奴は奴は殺人的加速をして、ポルシェに激突した。煽りを食ってポルシェはこの分岐に激突し、この有り様…文字通り止めを刺したって感じだった…
鷹山 その黒い車は？
ホーリー 7号を小松川方面に走り去っていった。ほとんど無傷で…
鷹山 追わなかったのか？
ホーリー 追えなかった…恐怖で身体が凍りついたみたいだった…
鷹山 怖いもの知らずのお前がか？
ホーリー (力なく笑って) 本当に怖かったよ…ポルシェのドライバーの哀願がリアルチャットを通して聞こえてた。「助けて」って…私は何度も叫んだ、奴に向かって「やめろ。誰なんだ、てめえ！」
鷹山 奴は何も答えなかったのか？
ホーリー ……ああ。でも、ポルシェが激突するその瞬間に、ポルシェのドライバーの悲鳴に混じって、低く、くぐもった合成音じみた声を聞いたような気がする…たった一言…ジェイ…

そのホーリーの言葉を継ぐように背後から声が響く

「JH・・・」

振り返る二人。背後に宮内(通称宮さん)とかずえちゃんが現れる。

宮内 JH・・・ 奴はそう名乗っていると聞く・・・ JH・・・ このヴァーチャル・フィールドの名前 Joyride on the Highway と同じ名前・・・

鷹山 宮さん!

ホーリー あたしが連絡したんだ。(宮内に) 一体何なんだい、あの VV?

宮内 艶消しの黒一色のカラリング。路面に吸い付くような低い車高の VV。ヘッドライトも付けず闇に紛れて突撃してくる・・・

かずえ 殺人 VV・・・

鷹・ホ 殺人 VV!?

宮内 俺たちはそう呼んでいる・・・

ホーリー 誰なんだい、そいつ?

宮内 知るもんか。どこぞの馬鹿だろ・・・ とにかく奴と遭遇しないように祈るこつた・・・けつに喰らえ付かれたら最後、この JH では二度と走れなくなる。

ホーリー ここでの死は登録の抹消だからね・・・

かずえ 気を付けて! ポルシェのプログラムが自動消去されるよ・・・

「シュウ・・・」という低い音とともに明るい閃光が皆の顔を照らし出す。眩しい光を避けるため、皆顔をそむける。

宮内 ...また一人、JH から人が消えていったな。(不意に) なあ、鷹?

鷹山 (気まずそうに) なんですか、宮さん・・・

宮内 少しは顔だせよ・・・

鷹山 ...はい。

宮内 ...かずえ、行くぞ。

行こうとする。宮内とかずえ。
鷹山が背後から声をかける。

鷹山 宮さん。俺・・・

宮内 (立ち止まり) 鷹、いつでも遊びに来い。待ってるから・・・

宮内・かずえ退場する。

ホーリー 鷹、私は 6 号下って三郷から Exit するけど・・・ どうする、あんたは?

鷹山 じゃあ、俺もそうするよ。7 号は下りたくねえもんな。

ホーリー そう、今夜はね・・・

二人退場する。

5th June

舞台の上には女。ほほえんでいる。
舞台後方に男が現れる。

女 (にこやかに笑いかけて)淳一君!
男 佐藤さん・・・
女 路上の運転には慣れた?
男 うん。まあ、慣れたかな・・・ 最初は対向車のライトが気になって仕方なかったけど・・・ どうにかこうにか・・・ で、佐藤さんは?
女 私、やっぱり運転向いてないみたい。なんかしつくり来ないって言うか・・・焦っちゃってだめね。さっきの教習の時なんか、ぼっちり教官にブレーキ踏まれちゃって・・・びっくりして心臓三秒ぐらい止まっちゃったよ。怒られるどころか笑われちゃってさ、「だみだ、こりゃ」だって・・・いかりやさんか、あいつは! 人の気も知らないで・・・ほんと、このままで行ったら仮免取って路上出る前に心臓マヒで即死だね。それも所内のコースで・・・ ねえ、こういう場合でも交通事故になるのかな?
男 (笑って首を横に振る)
女 どうして淳一君まで笑うんだよ。結構私にとっちゃシリアスな問題なんだぞ!
男 ごめん。別に君自身を笑ったんじゃないで、きみのその言い方が面白くて・・・
女 それだって失礼だぞ。こっちは一生懸命、人の生死に関わる諸問題について・・・
男 ...佐藤さん、変わったね。
女 ん?
男 中学の時は物静かで、几帳面で・・・
女 ちよい待ち! それって、今ではうるさくて、がさつで、“おばかりん”だって言いたいわけ?
男 いや、僕はただ・・・変わったなって、そう思っただけで・・・
女 そうそう、変わっちゃったわよ。俗世間の荒波にもまれるうちに・・・ 実際こんな風になってしまいましたとさって感じだよ・・・ 淳一君の言うように中学の時の私は物静かで、几帳面で・・・ぜんぜん目立たなくて、いてもいなくてもいいような奴で、その上どんより暗くて、髪型だってうっとうしくて・・・ 人と話すのが苦手で・・・ 苦手って言うより怖かったんだな・・・
男 怖い?
女 ええ、マジで怖かったよ・・・ ほんと・・・跳び箱の次に怖かったね。
男 跳び箱って?
女 跳び箱って言ったら、体育のときにやるあれのことに決まってるじゃんかって・・・(言いながら、落ち込んで行く恵美子さんであった)・・・あーっ、やなこと思

い出しちゃったぞお、もう・・・ 実はさ、私、人と話すのも苦手だったけど小学校のときあの跳び箱って奴がどうもだめでさ。飛び越せなかったんだよね、怖くて・・・ 勢い込んで助走するんだけど、あの手前まで来ると急ブレーキ踏んじやうの。べったり手を突いたままストップ。何度やってもだめ。勇気が出ないんだよね、飛び越す・・・ ほんとやなこと思い出しちゃったなあ・・・ あたしって基本的にそういうところがあるんだよね・・・ それが、この車の運転にも出てるって訳よね・・・ ここ一番で勇気が出ないって言うのが・・・ 大丈夫かな、私。この先路上講習とか始まったときちゃんとアクセル踏み込めるのかな？

男
女

・・・だ、大丈夫だよ、きっと。

そうかな。私は高速教習の時にフルブレーキ踏んじやって、教官ばかりかその他十人のトラック運転手を巻き添えに非業の死を迎えるのに百万クルセイロ(って、いくらだ?)賭けるよ。

男
女

大丈夫だよ、絶対。自信持てば・・・ だって、人と会話するのが怖かったのに、今はこんな風にちゃんと話してる・・・

それとこれとは話が違うの。だって、人と話すのは何年もかけて心をゆっくり慣らしながらやったことで・・・

男
女

だから、車だって・・・

何年もかけて免許取れって？ 何百回も教習受けて?? ちょっと、そんなことしたら、私は一体ここに何万クルセイロ(だから、いくらだ?)支払うことになるわけ??? クルセイロはちょっと分からないけど・・・ とにかく運転に慣れればいいわけだよな？

女
男

だから、そのためには・・・

いいものがあるんだ。コンピューターシミュレーションなんだけど・・・

女
男

コンピューターシミュレーション？

そう。

女
男

でも、シミュレーションなんて・・・

ハンドルやアクセルやシフトレバーまで使ってやるやつで、かなりリアルなんだ。だから最初運転するのは怖いぐらいだよ。・・・きっと君のためになると思う。(何故かはにかむように)・・・JHって言うんだけどね。

女

ジェイ・・・エイチ・・・？

男の姿はすでに消え、独り舞台に取り残される女。

懐かしむように遠くを見つめている女。その背後に鷹山が現れる。

鷹山がそっと女の肩に手を置く・・・

女
鷹山
女
鷹山

じゅんいち・・・(鷹山と目線が合い、そして息を飲む)

・・・じゅん??

(恥ずかしくなって、ごまかす)ジュン・エイチ・・・

なんじゃそら？ JH だろ JH。・・・それにしてもどうしたのかな、恵美子さん？ こ

んな殺風景な C1 の外回りでもの憂げに遠くを見ちゃったりなんかして…

女 VV が…

鷹山 VV がどうかしたのか?

女 壊れちゃった…

鷹山 壊れちゃったって…事故っちゃったの?

女 …急に動かなくなっちゃって。

鷹山 どれどれエンジン見てみるか… (とポシエットに近づきボンネットを開ける)
ふーん…(腕組みして、頷いたり小首傾げたりしている)

女 どう、直りそう?

鷹山 …俺にや、よくわかんねえ。お手上げ!

女 じゃあ、考え込んだりするなよ!

鷹山 すまんすまん。

女 でも、どうしよう… そうだ、近くのイグジットポイントまで牽引してもらえませんか?

鷹山 この近くっていったら、4号の高井戸か…

女 えっ、3号用賀の方が…

鷹山 それじゃ逆走になっちゃうだろ。

女 でも、4号はあまり好きじゃないから…

鷹山 好きじゃないって、そんなこといつてる時じゃ…

女 嫌なの! だめなのよ、4号線は…

鷹山 そんな目くじら立てなくても…

女 ごめんなさい。VV が壊れてちよっと気持ちが悪さくれ立ってて… でも、4号だけは…

鷹山 あっ、そうだ。そうだよ! 宮さんの所だ!

女 みやさん?

鷹山 ああ、宮内さんっていうんだけど、JH を作った古株の一人でさ。JH の中にガレージ持ってるんだ。修理とかチューンアップ用の… それもこのすぐ先の霞ヶ関のトンネルの中に秘密の分岐点があって…そこん所にあるんだ。そうだよ、そこへ行こう。だって、VV 壊れたままイグジットしたらもう二度と JH にエントリーできなくなるかもしれないだろ?

女 そうね… じゃあ、そこまで連れていってもらえますか? ご面倒おかけしますけど…

鷹山 またまた、他人行儀な言い方しちゃって… いってことよ、困ったときはお互い様… まあ、こっちも顔を出す口実ができて好都合ってもんだし…

女 口実?

鷹山 いやいや、こっちの話。…さて参りましょうかといいたいところですが、連れてくためには一つ条件があります。

女 条件? 結構あなた意地悪系?

鷹山 いえいえ、意地悪ではありません。簡単なクイズに一問だけ答えるだけです。

女 クイズって・・・
鷹山 では、問題です。・・・私は誰でしょう? さあ、ヒントは三つ! 第一ヒント!! 鳥の・・・
女 鷹山さんでしょ。
鷹山 へっ?
おんな 鷹山さんでしょ。鳥の鷹に・・・
鷹山 なんでヒントいう前に答えちゃうのよ。もう、折角おいしいヒント考えてたのになー・・・って悔しがってる俺は変?
女 うん。
鷹山 名前憶えててくれたんだ。うれしーなー、喜ぶべきことだよね、これって・・・
女 そう・・・だと思っよ。
鷹山 そうだよね・・・ でも、なんか、こうさらりと言われちゃうと、なんて言うの有り難みがないちゅうか・・・
女 困った人だな・・・
鷹山 ん?
女 いえ、なんでも・・・
鷹山 まっ、正解しちゃったもんはしょうがない・・・ では参りましょ。トランクの中に牽引ロープ入ってるはずだから・・・

二人、退場する。

鷹山は退場しながらも小首傾げて世迷い事を言い続けている。
「うれしいはずなのに、素直に喜べないこの状況って一体なんなんだろうね・・・」

そして、闇となる。

6th June

ここは宮内の管理する JH 内のリアルチャットルーム。言うなれば宮内モーターズのガレージとでも言った方がいいだろう。
舞台の上に宮内、かずえ、そして中学生三人組がいる。

宮内 どうだ、かずえ？
かずえ (後方に向けて先ほどからなにかをしているようだったが、振り返り)エンジン・シャシーには障害はないよ。
下田 ほっ(胸を撫で下ろす)。
伊東 なんだ、つまんねーの・・・
下田 伊東君。つまんないは無いんじゃないの。普通良かったね、だろっ!
宮内 あー、うせーな。さあ、そうと分かったら早く帰りな。
下田 帰りなって、宮さん。僕これ直してもらいに来たんだよ。
宮内 シャシーにもエンジンにも問題ないんだったら、走って帰れるだろ。
下田 ちょ、ちょっと。この車の両側面見てよ。ぼっこぼこでしょ？ これじゃかっこわるくて走れないよ。
宮内 だったら、走るな。
天城 なあ、宮ちゃんよ。そりゃねーんじゃねーの？ 俺たちお客様なんだからさ。
宮内 お遊びで壊した VV を直す趣味は無いんでね。
伊東 カネはちゃんと払うって言ってるじゃないの。(下田に)なあ？
下田 うん。
かずえ Z32 だろ？ この手の VV の板金は結構高くつくよ。
天城 ば・ん・き・んじゃなくてレンタリングだろ？ まったく古株の人はこれだから・・・
下田 分かってるよ。この VV のレンタリングが高いことぐらい。だって、このハイレゾの Z、譲ってもらうだけですごい値段だったんだから・・・
かずえ だろうね・・・ 何処から見つけてきたのかは知らないけど・・・
宮内 あーあ、昔は VV なんて・・・
伊東 (宮内の言葉を継いで)自分でプログラムするものだったんだけどな・・・だろ？
天城 何度聞いたことか、あんたのその口癖。
天・伊 まったく古株の人はこれだから・・・
下田 ...とにかくお願いします。直してください。修理代はクレジットの方から引き抜いてくれれば・・・
宮内 分かったよ、下田君。でも、これが最後だぞ。今度事故った時はお前が JH から去るときだと思えよ・・・
下田 はい・・・
宮内 かずえ、その Z32 のデータ、俺の方に転送してくれ。
かずえ あいよ。

そこにホーリー登場。

ホーリー こんちわ、宮さん、かずえちゃん。

宮・か よっ、ホーリー…

ホーリー おっ、これはこれは。あほ三人組までいたのかい？

下田 ホーリーさん。

ホーリー 下田君、どうしたのかなー。またこの馬鹿どもにいじめられて、VV お釈迦にしちまったのかい？

下田 うん。

天・伊 何言ってるのかな、下田君！（にこやかに、だけど凄む二人）

下田 あああ、そうでした。ホーリーさん。やだなー、自損事故ですよ。それも、不注意からの… そういうことにしとけて言われてるし…って言っちゃてるし、僕って…

天・伊 あほ…

ホーリー あのね、君達。いい、JH はゲームなんかじゃないんだよ。ここは大人のシミュレーション空間なんだ。危険な遊びしたいんなら他でやりな。

天城 ほんといけ好かねえ女だな、あんたって人は！

ホーリー 天城君、あんたもね。ほんといけ好かねえガキ… 今度湾岸で勝負付けるかい？ といってもあんたの RX-7 があたしの GT-R に勝てるとは思わないけどね…

天城 御姉様。お言葉ですが俺の VV はそんじょそこのやつと違ってフルチューンアップしておりますから、そう簡単に負けるとは思いませんが…

伊東 ほんとだぜ、ねーちゃん。天城はけっこープログラムいじれるんだ。

ホーリー ほー、そいつは楽しみだね。

天・伊 いい気になってるとほえ面かくぜ…

ホーリー …心底いやなガキどもだね。OFF で会って股間にけりでも食らわしてやろうかね、マジで！

と、舞台奥から声がする。

「そいつはやめといた方がいいじゃねえの…」

鷹山がのっそりと現れる。

鷹山 …OFF で会うのは危険だせ。もしかしたら中学生の振りしてた中年オヤジとネットおかまがばったり出会うことになったりして…

ホーリー 誰がネットおかまだって？

鷹山 ホーリー様…

ホーリー おいおい、どー聞いたってあたしの声は女の声だろっ！

鷹山 わかんねーよ。ボイスチェンジャーっててもあるだろ？

ホーリー あほくさ・・・
宮内 よっ、タカ。一年ぶりぐらいか？ ここ来るの・・・
ホーリー 宮さんに顔出せって言われたの真に受けて、ちゃっかり来てやんの、こいつ。
どの面下げて・・・
かずえ ホーリー、そこまでにしておきな。
鷹山 ……実はちょっとエンジン見てもらいたくてさ。
三人組 おっ、とうとうタカちゃんの 86 もお釈迦ってわけ!!
鷹山 あほなこと言うな。おいらの 86 はビンビンだぜ。
宮内 じゃあ、なんなんだ?
鷹山 知り合いの VV なんだけど・・・ 入りなよ。

女、登場する。

女 すみません。私の VV なんです。
伊東 おや？ その人は・・・ この前タカちゃんが粉かけてた・・・ やったね、タカちゃん。オンライン・ナンパ大成功だね！（と、握手を求める）
鷹山 （つい、握手をし）・・・伊東君、どうもありがとう。苦節何年、このおじさんにもやっ
と春が・・・って、大人をからかうなっていっとるだろ!!
女 あの・・・VV が急にエンストしちゃって・・・ そこに偶然鷹山さんが通りかかっ
て・・・
ホーリー そんなもって、このぼけなすがここまで引っ張ってきてくれたってわけ・・・
女 ええ。
ホーリー あんた、いいダシに使われたね。タカちゃんがここ来るのに・・・
女 どういうことですか？
ホーリー 奴も奴なりにここに顔出し難い事情ってものがあったさ・・・
宮内 （鷹山に）それで、彼女の VV はそこにあるのか？
鷹山 えっ・・・ええ。
宮内 かずえ。ちょっと調べてもらえるか？
かずえ はいよ・・・(舞台袖に歩いていき、袖を覗き込むが、すぐに顔を出し)・・・凄いね。
緑色のポシェットだよ・・・

宮内が、「えっ!!」という顔で舞台袖に走り込んで、そして顔を出す。

宮内 ……ほんとだ。緑色のポシェットだ!

女を覗く全員がこっくりと頷く。

女 緑色のポシェットが何か？
宮内 いや、べつに、どうってことは・・・

かずえ JHじゃあまり見ないから・・・
女 そうなの？
全員 そうなの。
女 変？
全員 (困ったなという顔で、小首を傾げる)
女 やっぱり変なの？
全員 んーん・・・(困ったなという顔で、首を横に振る)
女 (落ち込む)
鷹山 いや、俺はかっこいいと思うよ。逆の意味で・・・
三人組 逆の意味って一のはまずいんじゃないの・・・
鷹山 あっ、だから、その、恵美子さん・・・
ホーリー お前のそのしどろもどろもだめなんじゃねーか？ ほら見なよ。その恵美子さん
とやらがどんどん落ち込んで行くよ。

落ち込む女の周りで、何故か茶化すように手をつなぎフォークダンス(?)を踊り始める三人組と何故か宮内。

鷹山 こらお前たち、彼女の周りで森の小人みたいにダンスするんじゃない! ...み、
宮さんまで!!
四人 すまん。(素直に謝る)
宮内 (女をなだめて)・・・だから、そんなに落ち込まなくても。
天城 そうそう、あんたのVV、かなり目立つぜ!
下田 JHに咲いた一輪の薔薇って感じで・・・
伊東 もう、ほれちゃうってぐらいいさ!
女 ...ほんとに、そう？
宮内 そうそう。
女 目立ってる？
天城 目立ってますとも!
女 一輪の薔薇？
下田 薔薇、薔薇・・・
女 ほれちゃう？
伊東 ちゃう、ちゃう・・・絶対ほれちゃう!
女 そっかー、それならいっかー・・・(つて、立ち直っちゃう)
ホーリー (鷹山の顔を見て)ほんとに立ち直ってやんの・・・
全員 ほっ。単純な人でよかった・・・

ふと、先ほどからお馬鹿な輪からはずれ、一人エンジンを見ていたかずえが声をあげる。

「そんな単純じゃない見たいよ、エンジンの方は。」

全員かずえの方を向く。

宮内 単純な原因じゃないのか？

かずえ ああ、見た限りじゃね・・・ プログラムレベルで検証しないとだめかな・・・

宮内 そうか・・・ 恵美子さん、あんたの VV のプログラム、ダウンロードしていいかな。

女 ダウンロード？

宮内 だから、一時的にこっちにプログラムを読み込むんだけど・・・

女 よく分からないけど・・・直るんなら。

宮内 明日の夜までにはどうにかするから、今夜はここから Exit してくれ。そして明日はここからエントリーするといひ。エントリーコードは「ENTER383」

女 383？

かずえ み・や・さん。

女 (こっくりと頷く)

そして、暗転。

7th June

舞台の上に女。

女 雨が降り出し始めていた…霧のように小さな雨粒だったから、ふと窓の外を見るまで気付かなかった。
きれいに片づけられたワンルームマンション。塵一つ無いまっさらな机。昨日までこの上には山のように雑誌がのっかっていたけど、この機会にと思い、まとめて古紙回収に出した…この机の上に淳一君から借りるコンピューターが鎮座することになる。
窓に顔を寄せ、外を眺める。霧のような雨がアスファルトを濡らしている。「大丈夫かな、淳一君…」
その時呼び鈴が鳴った。「はい。ちょっと待って。」そういいながら私は鏡で素早く髪の乱れがないことを確認し、そしてドアを開けた。
そこに淳一君が立っていた…
髪が濡れ、それに雨がジージャンに不定形の染みを作っていた。

舞台後方に男が現れる。

男 こんにちは、佐藤さん。コンピューター持ってきたんだけど…
女 そう言うと、びっくりするほど大きな段ボール箱を窮屈な玄関に置いた…
「淳一君。これ電車で持ってきたの？こんなに大きいならやっぱり友達に頼んで、車で…」
男 迷惑かけちゃうから…それにもうこうやって持ってきちゃったんだし…
女 雨の中大変だったでしょ？
男 ちょっとね。コンピューターが濡れるのいやだったし…
女 さあ、上がって…今タオル持ってくるから。
男 (動かない)
女 どうしたの？
男 でも…女の子の部屋に入るのは初めてで…だから…やっぱり…
女 何を言ってるんだか。コンピューターのセッティングをしてもらおう約束でしょ…
さっ、早く。
男 じゃあ、お邪魔します。(靴を脱ぐ仕草、そして周りを眺めて)…きれいな部屋だね。
女 お世辞はいいから…(タオルを渡し)はい、タオル。髪の毛濡れてるよ…
男 (タオルを受け取り)…この机にセッティングすればいいのかな？
女 セッティングなんて少し休んでからすればいいじゃん。今、お茶入れるからさ…

男 うん。(といいながらも、セッティング作業を開始している)
女 うんっていいながら、作業開始するなよ。休めって言うてるだろ、全く…
…そう私が突っ込んでも彼は作業の手を止めなかった。机の上にコンピューターを置きテーブルタップに電源コードを入れる。

男 電話はどこ？ ああ、ここか。
女 どこか電話するの？
男 いや、このモデムにつなぎたいだけで…
女 もでむ…
男 通信用なんだ。
女 ふーん…(全然分かってない)
男 …これでいいかな。モデムチェックも OK だし… じゃあ、サインアップしよう。
女 さい…なに？
男 このコンピューターをネットワークに接続するために必要なんだ。別に難しいことじゃない。画面に出てる書類の空欄を埋めていだけだよ。名前、住所、電話番号、クレジット…

女 わかんないよ。淳一君がやって。
男 だめだよ。これは君の個人情報なんだから、君自身がやらなきゃ。僕みたいな他人に知られちゃいけないだろ…
女 他人？ 淳一君は他人じゃないでしょ…
男 (女の言葉には答えずに)…はい、キーボードの前に座って。ローマ字入力だから… ぼくは向こうでお茶でも飲んでるよ。
女 じゃあ、お茶入れ換えるよ。それもう…
男 いいよ。折角入れてもらったんだから… それに僕は猫舌なんだ…

男、退場する。舞台の上には女が一人。

女 …淳一君。それ、さめちゃってるよ… 冷たくなっちゃってるのに…

舞台はゆっくりと暗転する。

8th June

「宮内モータースのガレージ」である。
宮内、かずえがコンピュータに向かっている。

宮内 …かずえ、どうだ、風洞シミュレーションの状態は？
かずえ ここに来て、抵抗が 22 ポイントも下がったよ。凄いね、なにしたの？
宮内 サイドステップの厚さをちょっとだけ薄くしてみただけだ…5ミリほどね。
かずえ 5ミリ？ それでこんなに？ 奥深いね、空力っていうのは…
宮内 そうだな。ハイスピードクルージングのスタビリティが向上するだろ…

女が現れる。

女 こんばんわ。
宮内 よう。直ってるぞ。あんたのポシエット。
女 ありがとう。
宮内 ちょっと待っててな… かずえ、シミュレーションの風の方向を左右に振ってみてくれないか？
かずえ はいよ。…こりゃ、また、ごりっぱ。吸いつくようだね…
女 宮さん、なにしているの？
宮内 あっ、これか？ これはエアロダイナミクス・シミュレーションと言って…
かずえ 空力の測定だよ…
女 空力？
かずえ VV の空気抵抗みたいなもの…
宮内 JH の中じゃ、VV を高速で安定して走らせるのに、この空力ってやつがけっこう重要なパラメーターになってて…
かずえ 最も重要って言うてもいいかもね。
女 ふーん。(モニターを覗き込み)この戦闘機みたいなのが VV？
宮内 そう、エボリューション IV… プロトタイプがそれなもんで、俺たちはそう呼んでる。たぶん現在の JH の中で最強の VV だろう。
かずえ 現在の？ (笑う)
宮内 そう、現在の… (自嘲して)今じゃ、C1 クレージレースなんて誰もしやしねえからな…
女 C1 クレージレース？
かずえ JH がまだ華やかかりし頃、大流行だったんだ… 用賀や荏原、羽田をスターティングポイントとして発進し C1 に入り、そこを 45 周してまたスターティングポイントに戻ってくるって言うレース。
女 45 周？

宮・か (真顔で)始終御利益がありますように…
女 (怪訝そうに)変なの…
宮内 変でもなんでも、はやってたんだからしかたないだろ。
かずえ タカちゃんがうちのパイロットだったんだよ。
女 あの鷹山さんが?
かずえ そう。信じられないだろうけど、このエボ IV 駆ってさ…
宮内 そんな C1 クレージレースの中でも一番盛り上がるのが、高井戸をスタートするやつだった…
かずえ そう、なんてったって、首都高4号線にはあのデッドマンズ・コーナーがあるからね。
女 デッドマンズ…
宮内 魔の 85R を含む代々木周辺の複合カーブの群れ!
かずえ C1 周回で差が開かなかつた激走する 2 台がテール・トゥ・ノーズで 4 号に飛び込んできた日にゃ、そりゃもう大変だ!!
宮内 そう、あの日も高井戸からのスタートだった。1 年前のあの日…

鷹山が登場する。緊張した面持ち…

かずえ いいね、タカちゃん。今日は絶対勝つからね!
鷹山 あたりめーだろ!!
宮内 俺たちはいつも二番手だった。永遠の二番手。あの頃、JH には不同の優勝者がいた。化け物じみたパワーのエンジンを組み込んだ VV を操る最強のパイロット。ハンドルネームはジュン…
女 ジュン…
かずえ エンジンは奴に負けてる。でも、空力とマシンバランスはこっちの方が上手なんだ。丸一ヶ月かけて宮さんがこのエボ IV のエアロダイナミクスを再計算したんだから…
鷹山 分かっている。コーナー勝負だろ、コーナー勝負。今日こそ勝つよ。何たって俺は、No. 1 だからよ。Taka as No.1 よ!!
宮内 そろそろスタートだ、かずえ。
かずえ 分かっているよ。タカちゃんががんばれよ!
鷹山 (OK サイン)
かずえ さあ、C1 クレージレースの始まりだぜ!!

爆音のようなエンジン音! ロケットスタートをきめる鷹山。

宮内 勝負は下馬評通り、ジュンとうちのタカとの一騎討ち。ザコどもなんか端っからおいてきぼりだ!
かずえ どうだい、調子は?

鷹山 サイコーだ。シェイクダウンの時よりいい感じだ。今日はいけるかも知れねーぜ。
(シフトダウンしてカーブを切る)・・・くっ、いいねえ、安定しまくりって感じ!

かずえ 奴の方はどうだい?

鷹山 相も変わらずすごい走りだよ。直線じゃあ勝負になりませんって感じ。でもカーブなら・・・ 抜きどころはたくさんある。江戸橋、浜崎橋、千代田トンネル・・・ なんとしても抜いてやる・・・

宮内 しかし、レースはそのままの順位で終盤へと移っていった・・・

鷹山 ...畜生。なんで抜けないんだ? いくらでも抜けそうなのによ!

かずえ タカちゃん、焦っちゃだめ・・・ 落ち着いて・・・

鷹山 分かっている。分かっているさ・・・ でも、もうすぐ最終ラップだろ?

かずえ ええ、でも、焦ったら絶対にだめだよ・・・

宮内 そして最終ラップ。二台の VV がテール・トゥ・ノーズで千代田トンネルを抜け 4号に飛び込んで来る。ジュンそしてそのすぐ後にタカ・・・

かずえ タカちゃん、気をつけて。強引すぎるよ!

鷹山 アグレッシヴにやらなきゃ勝てるわけねえだろ!

かずえ もうすぐ複合カーブが!

鷹山 分かっている! でも、ここで追い込んで少しでも奴にプレッシャーを・・・ ブレーキングをぎりぎりまで遅らせて・・・おっとっと、奴のけつにタッチしちゃったぜ。

宮内 タカは焦ってた。そして熱くなりすぎてたのかもしれない。そして、もしかしたらジュンの方も・・・

鷹山 参宮橋のコーナーを抜けた! ここだこの 500 メートルの直線・・・ここが勝負どころよ!!

かずえ タカちゃん、危ない! その先は!!

鷹山 魔の 85R だろ! 信じてるんだよ、このエボ IV のコーナーリング特性を!! ここで離されるわけにやいかねーんだ・・・

宮内 その時だ。急になんの前触れもなくジュンの VV のエンジンが狂ったような咆哮を発した。一瞬のことだったが奴の VV の挙動がおかしくなった。ほんの一瞬のことだったが俺には分かった。奴の足がちょっとだけアクセルから外れたその時、ブレーキングをぎりぎりまで遅らせていたタカの VV が後ろから衝突した!!

かずえ タカ!!!

金属が擦れあい、ひしゃげ、擦り減る轟音。

宮内 ジュンの VV が宙を舞った。反転し、ボンネットからコンクリートウォールに激突した。エボ IV はドリフトし側面をその残骸に擦り付けながらもカーブを曲がり切ったところで止まった・・・

タカが道の真ん中に立ち尽くしていた・・・ ジュンの VV をまばたきもせずに見つめたまま・・・ ひしゃげた鉄の塊が自動消去された後も、そのなにもなくなっ

た空間をじっと見つめ続けていた。

- かずえ (鷹山に駆け寄り)タカ! 大丈夫かい、タカちゃん?
鷹山 (立ち尽くしている)
宮内 ジュンは死んだ。無敗のチャンピオンはこうして消えた。そして、二度と戻ってくることはなかった・・・
鷹山 俺が殺した・・・
かずえ これはレースだろ? 仕方ないことなんだよ。
鷹山 みんな言ってる。俺が JH のヒーローを殺したんだって・・・(ゆっくりと、幽霊のように退場する)
かずえ そんなことないよ! タカちゃん!!(追いかける)
宮内 そして、タカも俺の前から姿を消した・・・ おっと、つまらない昔話を御披露しちまったね、こりゃ・・・ まっ、これがこのエボ IV の悲しい生い立ちと言ったところだ。だれも乗ってくれぬまま、性能だけがどんどん向上していく・・・ あほ臭い話だろ(笑って)・・・おい、かずえ、シミュレーションデータはすべてダンプできたか?
かずえ (データシートを手に持ち舞台袖から出てくる)とりあえずね。あんたが昔話に浸り切ってるうちに・・・ (データシートを眺め)でも、すごい数値だぜ、これ。サイドステップたった5ミリで・・・ (げらげら笑って)・・・あんた、ほんと天才だよ、ほんとに・・・
宮内 お誉めに預かり光栄でございます。(女に)・・・待たせたね、恵美子さん。さてとあんたのポシェットで一回りしてこようか? まあ様子見てことで・・・

宮内、女を連れ退場する。暗転。

9th June

一人ひた走るホーリー。

ホーリー ……いいねえ、湾岸線はゆったりしてるし、まっすぐだし。何一つか、自然とアクセル踏み込んだじゃうね。きょうもあたしの GT-R は絶好調だねえ… 新木場を越え葛西へ… 湾岸はいいねー 実がいい…って、にしても、なんか変だね。どうして、走り屋さん達の姿が見えないんだろ？ 今日は走り屋さん達の一斉休日か？ それともあたしに内緒で、外環のあたりでビッグレースをしてたりして… だったら腹立つな。…なんか寂しくなってきたな。チャットで呼んでみるかの？「ハイ、走り屋さん達。ホーリーちゃんだヨーン… 今湾岸の浦安付近を市川方面に走ってまーす…」(耳をそばだてるが、誰も答えてくれない)…寂しさ倍増。意味もなく明るく振舞うんじゃなかったよ、あたしったら… まあ、いいか… この先の市川 PA に行きや暇そうなのが、わんさというだろ…

意味もなく右に左に車線変更を繰り返す。

ホーリー どうしてあたしは無駄な車線変更をしているの？ あたしはこんなに寂しがり屋さんなの？ (気を取り直し、チャットに向かい話しかける)「ホーリーさんは千鳥町すぎましたよー。もうすぐ市川 PA に着きますからねー」って、誰か答えろって一の！ どんどん寂しくなるだろう！ もーっ!!

と、血相を変え急ブレーキを踏む。
タイヤの軋む音!
VV から飛び出すホーリー。

ホーリー ……なんだいこりゃ？ 一体何が起こったって言うんだい…

怪訝そうなホーリーの顔、そして舞台は暗転する。

10th June

宮内のガレージ。
かずえと三人組、そして鷹山がいる。
かけ込んでくる、ホーリー……

ホーリー ……かずえちゃん、宮さんは？
鷹山 なんか、恵美子ちゃんとドライブみたいよ。
ホーリー ドライブ。
かずえ 昨日、彼女の VV のエンジン直しただろ。それで、様子見で…… すぐ帰ってくる
とは思うけど、急用だったらチャットで呼ぶかい？
ホーリー 分かった。待つよ。
鷹山 一体、どうしたんだよ、ホーリー？
ホーリー 昨日の真夜中、湾岸で大暴れしたんだと、奴が……
鷹山 奴？
ホーリー だから奴だよ。
鷹山 奴って、まさか！ 殺人 VV!
ホーリー そう、走り屋の車に次々と激突して十二台お釈迦にしちまったんだと……
伊東 なんだそれ？ 殺人 VV って？
かずえ 艶消しの黒一色に塗られた車。前照灯も点けずに JH を走りまくり他人の VV
に激突してはそれを完膚無きまで破壊する……
天城 カッコいいね、それ！ 一匹狼のテロリストって感じで……
ホーリー 何いってるんだよ、あんたは！
鷹山 奴にケツに食らいつかれたら最後、お陀仏って話らしい……
かずえ 奴は自らを JH と名乗っているらしい……
下田 ここと同じ名前なの？
伊東 JH! そら、豪気だ。ここすなわち俺様って感じで……
下田 もしかしたら何かの略なんじゃ…… JH、たとえば Joker on the Highway と
か……
鷹山 ほほう!
かずえ Judgement in the Hell とか……
鷹山 知的だね……
伊東 十円禿とか!
天城 うまい、伊東!! お前優勝!!
ホーリー (怒って)あほか、お前ら!! 冗談言い合ってるときじゃねえんだよ。
鷹山 そこまで怒らなくても……
ホーリー あのね、ただ事じゃないんだ。昨日の事件は 12 台の VV がドライバー共々お
釈迦になっただけでは済まなかったんだよ……

鷹山 済まなかったって？

ホーリー 一緒に湾岸の市川 PA が吹っ飛んだんだ。

かずえ PA が吹っ飛んだってどういうこと？

ホーリー だから、JH から消えて無くなっちゃったんだよ、市川 PA が・・・

暗転する。

11th June

宮内と女。どうやらポシェットに乗り込んでいるようだ。

宮内 ……どうやらエンジンの調子は快調のようだな。
女 ええ、お蔭様で……で、一体原因は何だったんですか？
宮内 原因は……(言葉が途切れる)
女 ん？
宮内 原因は……リミッターだ。それが壊れてエンジンプログラムを抑え込んでた。リミッター自体のバグかもしれない……
女 リミッター？
宮内 本来はエンジンの過剰な出力を押さえるための「たが」みたいなもんなんだが……
女 たが？
宮内 ああ。エンジンのオーバーレブを防ぐのために付けられている。それはVVも一般の車も根本的には同じような機構で……(前を指さし)あっ、その先の浜崎橋を1号に折れてくれないか……
女 はい。

ゆっくりとカーブを右折する二人。

宮内 だけど……このVVの場合、エンジン保護というよりは……化け物じみたエンジンを強引に押さえつけてる感じなんだ。
女 化け物じみたって……
宮内 とにかくこのエンジンのポテンシャルは並みじゃない。ぶっちゃけて言えば、フェラーリの上にポシェットの器のつけたみたいなものだ。
女 フェラーリって??これが?
宮内 リミッターの所為で分からないだけだ。プログラム上から見れば、こいつのエンジンのスペックとシャシーのバランスはほれほれするぐらいにいい。見事だ。一時はリミッター引っこ抜いてやろうかと思ったぐらいだ……
女 引っこ抜きゃえばよかったのに、そんな故障するリミッターなんて……
宮内 そんな事したらこのVVは自殺マシンに早変わりだよ。エンジンパワーに器が追いついていかない……もろ踏み込んじゃったら、ばらばらに分解する可能性だってある。
女 それは嫌だな……
宮内 でも……器さえ乗せ換えれば、ハイレゾのフルポリゴンの空力モデルに換えれば……きっと、コーナリングで3.5Gにも耐えられるVVになる……F1カーで首都高走るようなものだ……

女 (ふと、前を指先) あっ、あれ・・・
宮内 ん？ レインボーブリッジか？ ……そうだな芝浦 PA で休むか。そこ右に入っ
て・・・

ゆっくりと右折し VV は停止する。外に出る二人。

宮内 なあ、恵美子さん。この VV 誰から・・・

女が前方を見つめている。レインボーブリッジを見つめているのだ。

宮内 恵美子さん？
女 ごめんなさい。・・・この VV ね。この緑色のポシェットは幼馴染みにもらったもの
なの・・・

宮内 幼馴染み？
女 でも、ホントにもらったのかな・・・ ただ貸してくれただけかも・・・
宮内 どういうこと？

女 (首を横に振り)・・・なんでもない。見て、レインボーブリッジ。ホントに綺麗ね・・・

宮内 ……ああ。たぶんこの JH の中でも一番美しいものだろうな。

女 宮さん。私ね・・・私・・・たった一度だけ、彼とここに来たことがあるの。ポシェッ
トをくれたその彼と・・・ もちろんそれはこの JH の中だった・・・

知らないうちに宮内が消えている。クロスフェードで変化する照明。

女 それは、淳一君がたった一度だけ私の部屋を訪ねてきたあの日。彼がそば降
る雨に濡れながらコンピューターを持ってきてくれたあの時・・・

男が登場する。

男 ……一応コンピューターとネットワークの設定は終わったから確認のため JH に
入ってみよう。最初は僕が運転するね。エントリーは目黒線荏原からで・・・ じ
ゃあ、スタートするよ。

女 ……わあ、夜の首都高。まるで本物みたい。

男 リアルだろう？ 画面だけじゃなくてこのハンドルのレスポンスも結構本物っぽい
んだ。・・・一応この車はポシェット、僕が作ったんだ。

女 私のために？

男 ……

女 何照れてんだよ、このこの。

男 佐藤さん、危ないって。・・・下手にスカイラインとかにしちゃうときつとあおられ
まくっちゃうだろうから・・・ それに色は緑色。

女 みどり? ……すごい趣味の持ち主ね。
男 目立つから危険も少ないと思って… この Jct を右折して C1 の内回りに入る
ね…

と、男ハンドルを切ると、女が左側に引っ張られたような姿勢になり、曲がりきるとともに元に戻る。

女 ねえねえねえ、今、曲がったときに遠心力感じたよ。遠心力!
男 そこがこの JH のすごいところなんだ。錯覚みたいなものなんだろうけど、妙にリアリティがあるんだ。

女 おもしろいわね、これ…

男 じゃあ、この先の浜崎橋をもう一度右折するね。

とハンドルを切る。リアルな遠心力に耐える二人。

女 うそだって分かっているけど、やっぱり遠心力感じちゃう。恐ろしくリアルって感じ… (唐突に前を指さし)あっ、なに、あれ! 橋? ねえねえ、橋??

男 レインボーブリッジ。

女 レインボーブリッジ!? ……すごいリアル、ぴかぴか光ってる。

男 ちょっと降りてみようか?

女 降りるって、車から降りれるの?

男 そう、車を止めてこのボタンで外に出ることが出来るんだ。そしてカーソルで自由に動き回れる。

女 カーソル? (男の手元を見て)ああ、この矢印のやつ…

男 (車を路肩に駐車し)さあ、外に出よう。こっちが舟の科学館、向こうに東京タワー(フジテレビ新社屋でも可)が見える。そして、あれが日の出桟橋。

女 すごいきれいね。もう溜息しかでないって感じ。

男 (時計を見て)そろそろかな? ちょっと橋の下を覗いてみて…

女 橋の下? (と、覗き込んで) あれ、向こうの方から光が近づいてくる…なにあれ?

男 ゆりかもめ。

女 ゆりかもめ!!

二人の下を列車が通りすぎる。

女 凄すぎ…リアルすぎって感じ… ねえ、一体誰がこんなすてきなものを作ったっていうの…

男 ……僕が作った。

女 へっ、今なんて言ったの?

男 僕が作った……そう言ったんだ。
女 これ全部？
男 レインボー・ブリッジだけだけど。JH はいろいろな素人プログラマーが寄ってたかって造り上げたものなんだ。C1 からの羽田線と最高速アタックの湾岸線はかなり早い時期にできてたんだけど、このレインボー・ブリッジを造ろうとするやつは出てこなかった。造りあげる努力と JH 自体への貢献とをてんびんに掛けたら釣り合わないからね…… だから僕が……
女 これを作ったの？ 橋も、道路も、この風景すべて、淳一君が？
男 丸二年かかった…… 丸二年…… 僕が造ったんだ、僕が……
女 凄いね。淳一君って……
男 自分で言うのも何だけど、やっぱり美しい。たぶん、JH の中で一番……
一年ぶりに見たけど昔と寸分変わらず美しい……
女 一年ぶりって？
男 事情があって走れなかったんだ、ずっと……
女 淳一君……
男 でも、ここは僕が造った…… そうだよ、僕が造ったんだ……

男、昔を懐かしむかのような視線のままゆっくりと退場。
取り残される女。いや、傍らに宮内がいる。

女 ………
宮内 ……「ここは僕が造った」か。
女 宮さん。知ってる？ 彼のこと……
宮内 (首を横に振り)………さあ、そろそろ戻るか？
女 ……そうね。

舞台は暗転する。

12th June

舞台の上に天城、伊東そして下田。

天城 ……艶消しの黒。
伊東 ヘッドライトも点けずに滑るように接近する。
天城 触る者皆、即お釈迦…
伊東 VV だろうが道だろが…
天城 激突・炎上そして消失…
伊東 天下御免の暴れ馬…
天城 誰が呼んだか…
天・伊 殺人 VV、JH!!
伊東 ……が、お前の背後に! (と、下田を脅す)
下田 どっひー!! (と、びっくりして背後を振り返る)……ななな、なんだよ、伊東君。いい、いないじゃないか!!
伊東 当たりめーだろ。いたらお前置いて逃げ打ってるよ!
下田 ほっと一息…
天城 なにが、「ほっと一息」だよ。なに必要以上にびびりまくってるんだ?
下田 当然でしょ… 「ちょーびびりまくりのびびでばびで」でしょ? だって、ほら… (と、前方を指さす) ほら、何も無くなってる… ホーリーさんの言ったとおり市川 PA がきれいさっぱり…
伊東 お前に言われなくても見りゃ分かるって言うの。
下田 道路がここで断ち切れてる…真っ暗だよ? この先何も無いよ。ついこの前までは…
伊東 だから、見りゃ分かるって言ってるだろっ!
下田 さっ、殺人 VV は他人の VV のプログラムだけじゃなく、JH 自体のプログラムまで破壊できるんだ… どうして? どうしてそんなこと…
伊東 そんなこと俺に聞いても知るかよ!
下田 ねえ、殺人 VV がこのまま我がもの顔で走り回り続けたら、この JH は… JH はどうなっちゃうんだろ?
伊東 無くなっちゃうんじゃねーの?
下田 無くなっちゃうって、伊東君… そんなの…
伊東 (ふとさっきから黙りこくっている天城に気付き)……おい、どうしたんだよ? さっきから…
天城 面白れえ… ちょー面白れえじゃんかよ、殺人 VV。ぶっ潰してやろうぜ!
伊東 ぶっ潰す?
下田 天城君、危険だよ。
天城 その危険が俺たちぞくぞくさせるんだろ?

下田 俺「たち」って? たっ、「たち」って?
天城 俺たち三人で殺人 VV を地獄に送ってやろうじゃないの。
下田 三人って… 僕も入ってるの?
天城 当たり前だろ! (伊東に耳打ち)
下田 なになに、今の耳打ち? ちょっと、「越後屋、お主も悪よのお」の状態だよ、君達! 僕、いち抜一けた…じゃ! (と帰ろうとする)
伊東 (天城とともに下田の肩をがちっと掴み)おいおい、待てよ。下田は重要な役割があるんだから…
下田 役割…
天・伊 そっ、お前…囧!
下田 囧って!?
伊東 お前いい VV 持ってるし…
天城 そんなもって、逃げ足結構速かったりするじゃん!
下田 嫌だ! 絶対嫌!!
天城 いやいや言うな! お前はただ追われて逃げればいいだけだし。
下田 嫌だ、僕帰る。(と、VV に乗り込む)
天城 (すかさず助手席に乗り込み)下田、お前が必要なんだよ。
下田 やだ…だって怖いもん。
伊東 (ドアに持たれて)怖いって、お前。追いかけれんものには慣れてるだろ?
下田 殺人 VV は違うよ。殺人 VV は…殺意を持ってる。殺意が VV だけでなく JH 自体のプログラムを破壊するんだよ。
伊東 何、言ってんだお前?
下田 そうだよ。そうに決まってる… もし、殺人 VV に追いかけられたら、僕は失神するよ。もし、このバックミラーに真っ黒な車体が映ったら、絶対…
天城 (バックミラーに触れ)これか、これに殺人 VV が映ったら? だったら、取っちまえよ! (と、もぎ取る)
下田 なっ、なにをするの! 何でバックミラーを…
天城 (ポイと捨てて)…いいじゃねーか。これでビビんなくて良くなったってわけだ。お前は後ろも見ずに殺人 VV から必死で逃げまくってればいいだけだ。
伊東 そうそう。俺たちがその後ろに張り付き、頃合いを見てお前ごと殺人 VV をコースの外に弾き飛ばしてやるぜ!
下田 僕帰る! 降りてよ。嫌だから、絶対嫌だから… 二人とも酷いよ。酷すぎるよ!!

下田、二人を弾き飛ばし、逃げるように発進する。

伊東 (追おうとして)こら、下田。逃げれると思ってるのか!
天城 距離をおいてゆっくり追いかけてようぜ…

駆け出していく二人。そして暗転。

13th June

JHを一人ひた走る下田。

下田 (ひとりごちて)・・・天城君も伊東君も僕をなんだと思ってるんだ? 僕は二人のおもちゃなんかじゃ無いんだからね、もう。絶対許さないから、絶対に・・・

と、後方から迫ってきたVVが下田のVVを小突く。

下田 来たな、二人とも! (バックミラーで確認しようとするが、ないことに気付き)・・・バックミラー、天城君に取られたんだ! ちくしょう、絶対逃げてやるから・・・スペックで言えば僕のVVは君達のよりはいいんだからね。目にも物見せちゃうぞー!!

アクセルを踏み急加速! ご満悦のご様子でフェンダーミラーを指さし後方確認。

下田 ほーら、天城君なんて芥子粒ってもんだ! やっぱり速いんだ、このVV。高いだけあるよね・・・(ハンドルを切りながら)ほら、この左カーブだって吸いつくようだし・・・ あっ、前方にオービス! ちょうどいいや、最高速だしちゃえ!! (アクセルを強く踏み込む、と赤い閃光が下田を一瞬浮かび上がらせる)・・・見た、今の。オービスが光ったよ。最高速だよ、天城君。僕は最高速を更新したんだ! 伊東君だってできやしないだろ。僕は今、JHの中で一番なん・・・ (と、後ろから小突かれる) いてて、舌嚙んじやったよ・・・いつのまに天城君がこんなに近く・・・ (フェンダーミラーで確認する) でも今日は負けないからね・・・ (フェンダーミラーを見ながら)・・・天城君、聞こえてる? 勝負だよ。僕のZ32と君のFC・・・ねえ、なんか言いなよ!

天城からの返答が無い。

下田 ...なに? すねてんの、天城君? (フェンダーミラーをちらちら見ながら)本当に、前照灯も点けずに走っちゃったりして・・・前照灯も点けずに・・・って?? あれ? 天城君? ちょっと天城君だよな? ...まさか!!

背後の殺人VVが弄ぶように下田のVVを小突く。

下田 どっしえーっ!!!

と、下田へのサスが消え、舞台に走り込んできた天城と伊東に照明が切り替わ

る。

天城 あの野郎、何処行きやがったんだ？
伊東 何時もだったら C1 の外回り入ってちんたら走って帰ってるはずなのにな・・・
天城 俺たちの裏をかいて中央環状北上したんじゃねえだろうな・・・

と、唐突に下田の声。「誰か! 誰か、答えてー!!」
下田にサス。

伊東 下田からのリモートチャットだ!
天城 こら、下田。お前今何処に・・・
下田 天城君。助けて!
天城 助けてって、どうした?
下田 さ、殺人 VVー!!!
伊東 殺人 VV??
天城 追われてるのか?
下田 うん、うん、うん・・・
天城 今何処だ?
下田 C1 外回り。千代田トンネル、霞ヶ関越えたところだと思う! 僕、この先で 4 号に
入って、高井戸から・・・
天城 4 号はやめとけ。あそこにはデッドマンズ・コーナーがある。
伊東 魔の 85R。きっとそこで・・・
下田 じゃあ?
天城 そのまま直進して江戸橋向かえ。俺たちは内回りで先回りするから、そこで合
流できる。下田、俺たちが行くまでやられるんじゃねーぞ!
伊東、行くぜ! 面白くなってきやがった!!

天城と伊東、加速しながら右に折れ、退場する。

下田 ……天城君、伊東君、早く!! (右にハンドルを切りながらもどうやら左側面を擦っ
てるみたい)・・・あああ、あぶ、あぶ・・・火花散ってるしい・・・なんていってる時
じゃない! 今、千代田トンネル抜けて、竹橋へ。今のカーブで殺人 VV との間
がちょっとだけ開いた・・・(フェンダーミラーを見て) 殺人 VV が右車線へ移っ
た。僕との距離は約・・・(言葉が途切れる)・・・赤い目がこっちを見てる。血走
った暗い瞳・・・血に濁った二つのぼんやりと光るヘッドライトが僕を見据えて
いる・・・

舞台後方に飛び出してくる二人。

伊東 な、なにに行ってるんだ、下田!
天城 今俺たちは宝町だ。もうすぐ江戸橋で合流できる。
下田 暗く赤い瞳が迫ってくるよ! ……横に、横に並ばれる!!
天城 もうすぐだ! 合流するぞ!!

強引にカーブを切る、二人。

伊東 (前を指さし)見えた。下田の VV だ!
天城 安心しろ、下田。お前のケツ捕らえたぞ! この先の箱崎を木場方面に…
下田 だめ。右車線に移れないよ。ブロックされてる!
天城 強引に移れ! 9号で湾岸に抜けるんだ!
下田 出来ない!
伊東 まずい完璧にブロックされてる。このままだとこの先の…
天城 両国のカーブ… 下田、この先にきついカーブがある!
下田 だめだ! 目の前にコンクリートウォールがあ! 殺人 VV に潰されるう!!

金属が擦れて火花が上がる。明滅する照明!!

天・伊 下田!
下田 だ、大丈夫。まだ生きてる。たぶん殺人 VV は後ろに…(フェンダーミラーを覗こうとして、息を飲む)はっ!!
天城 どうした?
下田 今の接触でフェンダーミラーが…両方のミラーが取れちゃった…
後ろの状況がまるで分からないよ…
伊東 ばか、ルームミラーで…(気付いて) そうか、天城が…
下田 怖いよ。僕怖いよ。きっと後ろに殺人 VV が…
天城 怯えるな、いいじゃねーか。振り向かずひたすら逃げろ! イグジットポイントの三郷まではきついコーナーはねえ。ひたすらアクセル踏み込め! 逃げるんだ! 俺たちが殺人 VV を仕留めてやるから…
伊東 だめだ、天城。俺たちどんどん離されてる。やっぱり、俺の VV じゃ…
天城 ばかやろう、伊東。そこ抜けるまでアクセル踏み込め!
伊東 でも…
天城 でももくそもあるか、この根性なしが!
下田 天城君、何も見えない! 後ろが全然見えないよ! 助けて、早く!
天城 分かってる! (シフトダウンをし、アクセルを踏み込む_ロータリーエンジンの悲鳴、そしてシフトアップ) ……どうしてだ? どうして追いつかねえ!! このクソ VV、悔しかったらもっとスピードだしてみろ! くそつたれ!!
下田 怖いよ。僕怖いよ。赤い目が僕に向かってくるよ… きっと血に濁った瞳が僕を破壊する…

天城 下田、あきらめるな! 逃げ切れ! 三郷まで逃げ切れ!! …広域チャットオープン! 誰かいないか?…6号三郷線か外環に誰か走ってねえか? 下田が殺人VVに追われて6号を三郷方面に北上中! 誰か、誰か下田を助けてくれ!! 宮さん、ホーリー、タカちゃん! 誰でもいい! 誰でもいいから下田を…

金属がひしゃげ、切り裂かれる轟音。
天城の悲鳴「下田あー!!!」
舞台は暗黒となる…

14th June

舞台の上に女が腰を下ろし、下田を抱き抱えている。

女 天城君の悲鳴のような通信を私は外環の草加を過ぎた辺りで耳にした。急いで三郷に向かい Jct.に入ったところで轟音がとどろいた… イグジットポイントのすぐ手前で大きな鉄の塊がくすぶっていた。そしてその傍らに人影が見えたような気がした。私は VV を飛び出し、駆け寄った。下田君だった… 真っ黒に焼けただれた人形にしか見えなかったが、たしかにそれは下田君だった。私は抱き締めて声をかけた…
「下田君。」
下田君は答えるかわりに身体をちょっとだけ痙攣させた… そばに、天城君と伊東君が立っていた…

舞台後方に天城と伊東が立ち尽くしている。
震えながら下田が呟く…

下田 ……僕、だめだった…逃げきれなかった… あとちょっとだったのに…

下田が腕を上方に伸ばす。

女 下田君が手を伸ばす。灼け焦げた腕、溶けた油と染み出した体液が水銀灯の光を反射してる。

天城 下田… どうして…

女 天城君は泣いていたのかもしれない…

伊東 (後ずさって)やだよ、こんなの…これって、ただのコンピューターゲームだろ? なんなんだよ、これ…(逃げるように退場する)

天城 伊東!

女 天城君はそう叫びながらも、一步も動くことが出来なかった… そして、私の腕の中の下田君に向かい呼び掛けた…

天城 下田、俺…

女 その時だった。私の背後でまがまがしいエンジンの咆哮が轟いた。

エンジンをふかす音と同時に、舞台後方に暗く赤いヘッドライトが点る。

女 漆黒の闇の中、殺人 VV はそこにいた。息を潜めるように、そこに隠れていた… 血濡れた邪悪な二つの瞳… 悪魔の化身… でも、その車体は汚れ傷ついていた… 大きなへこみが至る所にあり、バンパーが痛々しいほどに

ひしゃげていた・・・ と、人格のない冷たい声が私の鼓膜を突き刺した・・・

合成音じみた声が木霊する。

「JH・・・Jealousy & Hate・・・」

女 Jealousy & Hate・・・妬みそして憎しみ・・・その声は確かにそう言った。
感情のこもらない無機質な、だからこそ悲しげに聞こえる小さな声で、どこか聞き覚えのあるあの声で・・・ 私は聞いた。震える小さな声で・・・

「あなたなの？」

殺人 VV は何も答えなかった・・・ そして、その充血した目を明滅させると轟音を轟かせ、コンクリートウォールに車体を擦りつけ、それを破壊しつつ、自らも破壊されつつ・・・やがて暗闇の中へ消えた・・・

と、エンジン音が鳴り響き、エコーとともに消える。

暗く赤いヘッドライトがフェードアウトする。

女 「これって、ただのコンピューターゲームだろ？」伊東君の言った言葉が私の中で幾度も反響する・・・ そう、JH はただのコンピューターシミュレーション。・・・でも、この腕全体に伝わる下田君の身体の感触は？ この座り込んだアスファルトの骨の髄にまで達するような冷たさは？ これはすべて錯覚なの？ 私はただコンピューターの前に座っているだけ・・・だからすべては幻なの・・・

地鳴りのような SE がゆっくりとフェードインしてくる。

舞台後方に宮内とかずえが現れる。

かずえ 恵美子さん、やばいよ。早く逃げて!

宮内 ここら一帯のプログラムが消失しそうだ! 早く!! 天城君、何ぼけっとしてるんだ! 逃げるんだよ!

地鳴りの音が大きくなり、ぷつぷつと切れる。

そして舞台の上は女への単サスのみとなる。

女 ……私たちが逃げ出したその直後、三郷 Jct.を中心とした半径 3km の高速道路網が JH 上から消滅した・・・

舞台後方に男が現れる・・・

男 ……JH にエントリーしなくたって、僕は今でも走り続けてるんだ。

女 走り続けてる?

男 そう、僕のVVがJHの中を走り回ってる。
女 淳一君のVVって？
男 そのVVは・・・ほら、僕が造ったレインボーブリッジを走ってた「ゆりかもめ」
みたいに自動化されたVVなんだよ。僕が操作しなくても好き勝手にC1を走り
回ったり、自動的に他の人のVVを追尾したり・・・
女 淳一君は何でも作っちゃうんだ？
男 しょうがなく作ったんだよ。走りたくても走れないから・・・
そのVVはね、JHという名前で・・・
女 JH？このシミュレーションと同じ？
男 そうだね・・・偶然そうだったんだ。
女 何の略？
男 ん？
女 だから、何の略？
男 んー・・・Jun's Heap。淳一のぽんこつ車っていうところかな？

男が退場し、取り残される下田を抱き締めたままの女。

女 Jun's Heap、淳一君のぽんこつ車・・・それは本当？

ゆっくりと、暗転する・・・

15th June

受話器から漏れる呼び出し音。
サスが天城を照らす。
受話器の上がる音……

天城 ……あっ、下田さんのお宅ですか？ 天城ですけど…… いえいえ、こちらこそ……
ええ、昨日も今日も学校休んでるから、どうしたのかと思って…… 頭が痛い？……風邪ですか？ インフルエンザが流行って…… ああ、熱は無いんですか…… いえ、それは良かったなと思って…… あの……（言い淀んで）あの……
「早く良くなってね」と伝えてください。僕が言ってたって…… じゃあ、お大事に……

電話の発信音……
舞台袖に伊東が現れるが、天城に気付き逃げようとする。

天城 どうしたんだよ、伊東。
伊東 (天城の目を見ずに)いや、どうもしないよ。僕、ジユクがあるから……
天城 待てよ。今夜もJHにエントリーしないのか？
伊東 うん。なんか飽きちゃった……のかな？
天城 ……急にか？
伊東 ……ほんとは……怖くなったんだ。
天城 怖いって？
伊東 ……なんか変だよ、あのゲーム。リアル過ぎるだろ。行き過ぎなくらいリアルだよ。
頭がどうにかなっちゃうような気がする…… 天城もやめた方がいいよ、深みにはまらないうちに…… じゃ……
天城 (帰ろうとする伊東に向かって)……臆病者。

伊東、何かを言おうと一瞬立ち止まるが、足早に退場する。
入れ替わるように宮内、かずえ、ホーリー、鷹山が登場する。女もゆつくりと入ってきて後ろの方へ腰掛ける。
ここは宮内のガレージ。

鷹山 ……どういうことなんだよ、それは？
かずえ だから、殺人 VV はどこかのあほ野郎が遊び半分で乗り回してるわけじゃないんだよ。
宮内 そうなんだ。JH のログインカウンターの数は殺人 VV の出現時、消失時とも変化していない……

ホーリー つまり、殺人 VV は誰も乗っていないってこと？
宮内 そう。
鷹山 そうって簡単に言うけど、一体どういうこと？
宮内 プログラム自体が自律的に走ってる・・・
鷹山 プログラムが人の VV 破壊したり、JH の一部を消失させたりできるわけ？
かずえ 現実そうなってるんだよ。
ホーリー ウイルスってことは考えられない？
宮内 そう言った方が分かりやすいな・・・ VV や JH を破壊するウイルス。
鷹山 だったら、撃退するにはどうすりゃいいんだ？ 手立てはあるんだろ？
宮内 手立て？ さてな・・・
鷹山 さてなって、宮さん！ なたは、ここ一番ってときにはホントに役に立たないな！
宮・ホ お前もな！
鷹山 真顔で切り返すか、ちみたち・・・
かずえ あたし思うんだけどさ・・・ 奴とレースしてうち負けさせばいいだけなんじゃないのかな・・・
鷹山 レースしてうち負けす？ あほか？ 奴と C1 クレージーレースでもやれってか？
そんでもって、奴が負けたら「どうやら、俺の完敗のようだな・・・タカちゃん」って
すごすご引き下がるわけか?? そんなスポオツマンシップが通じる相手なの
か?? あゝー??
かずえ そうじゃなくて・・・ 奴はただのプログラムだろ？ だから、極めて単純な反射に
近い反応しかしてないんじゃないかって・・・
ホーリー かずえちゃん、どういうこと？
かずえ だから、奴は単細胞に出来てるんじゃないかってこと。基本的に奴は速い VV
を追うだけのプログラムなんじゃないかって・・・ だから、奴の前を奴より早く走
り、コーナーを奴より巧みに切り抜ければ・・・奴の限界を越える走りをすれば、
奴は勝手にコンクリートウォールに激突して大破するんじゃないかって・・・
宮内 単純な反射か？
かずえ 奴がどんな機構で VV を追尾するのは分からないけど、それだってきっと、
そんな複雑なものじゃないはず・・・
ホーリー でも、奴のスペックは桁外れで、それに奴は恐怖を感じない・・・
かずえ だから、JH 最高のマシンで奴に対抗するの。・・・エヴォリューション IV で。
ホーリー エボ IV って・・・あの？ あれまだ生きてたんだ・・・
かずえ ああ、でもあの時の奴とはスペックが全然違うよ。エンジン、シャシー、足回
り・・・全部もう一度手を入れて、車体のレンダリングをもう一度再計算したんだ。
ポリゴンの数がそんじょそこの VV とはちよいと違う。JH 最高の空力特性だ
よ。そしてこの VV を駆るのは、JH 最高のパイロット・・・タカちゃんだよ。
鷹山 ばか言うな。おれはもう・・・
かずえ タカちゃん。宮さんはねあんなのために、このエボ IV 一から作り直してたんだ
よ！ 帰ってくるかどうか分からないあんなのために・・・ 何カ月もかけてレン

ダリングの再計算を・・・

宮内 かずえ、いいんだ。もうやめてくれ・・・
かずえ よくない。走るんだよ。でないとあんたも宮さんも負け犬みたいじゃないか!
ホーリー かずえちゃん。何言ったって走れねーよ、この腑抜けは!
鷹山 宮さんやかずえちゃんには悪いけど、おれ・・・だめなんだ・・・
かずえ あのね、この VV 転がせるのは、あんたしか・・・
天城 (さっきから黙りこくっていたが)俺が乗るよ・・・
鷹山 天城・・・
天城 俺にやらせてくれ。頼む・・・ 俺、悔しくて・・・ だから・・・
宮内 すまんが、だめだ・・・
天城 宮さん、どうして?
宮内 たしかにお前はいいドライバーかもしれん。でも今のお前じゃエボ IV と心中するの
のが落ちだ・・・ 天城君とホーリーはフォローに回ってくれ。そして、エボ IV
は・・・かずえ、お前が乗ってくれ。
かずえ 宮さん、あたし・・・
宮内 かずえ!
かずえ はい・・・
宮内 じゃあ、みんな、明日またここにエントリーしてくれ・・・
鷹山(退場する)
かずえ たかちゃん! (宮内を一瞬見つめるが、鷹山を追いかけて退場する)

ホーリーと天城もそれぞれの想いで退場する。
そして、宮内も退場しようとするが、女が呼び止める。

女 宮さん。
宮内 恵美子さん。あんたはもう JH に来ない方がいい・・・
女 嫌です。私、明日も来ます。
宮内 恵美子さん・・・
女 宮さん・・・ 私、殺人 VV を作った人を知っています。たぶん・・・
宮内 淳一君だったっけ・・・ 君の幼馴染みの・・・ レインボーブリッジの制作者・・・
女 知ってたんですか?
宮内(頷くでもなく、ちょっとだけ目を伏せる)
女彼、言ったんです。僕は JH にはもうエントリー出来ない。でも、僕は JH の
中で永遠に走り続けるんだって・・・ 最初はなんのことか分からなかったけど、
たぶんそれは自律的に動く VV を JH の中に移植したってことじゃないかっ
て・・・ でもそれは、この JH を破壊するため何かじゃ決してなく、彼が自由に
走るために・・・ だって淳一君はそんな悪い人じゃない。絶対に悪い人じゃ・・・
宮内 そう、いい奴だった。
女 いい奴って・・・ 宮さん、ほんとは彼のことを・・・

宮内 知っていた。忘れようとしても忘れられない・・・
ジュンだよ・・・C1 クレーギーレースの永遠の優勝者。そして JH プログラマーの一人。レインボーブリッジは奴の制作だと聞いた覚えがある。それだけではなくジュンはとてつもないエンジンを作り出していた、怖くてアクセルが踏み込めないぐらいの・・・ 暴れ馬 奴はそう言っていたかな・・・ 奴はその暴れ馬を押さえつけるためのリミッターを開発し、そして奴は無敵になった・・・ JH 上の最高時速記録装置であるすべてのオービスの記録を塗り替えていった・・・ 奴はトップだった、最後のあのレースまで・・・

女 最後のレース・・・鷹山さんとの。

宮内 あの時ゴール近くのカーブで奴の VV の挙動が急におかしくなった。リミッターが吹っ飛んだんだ。そうとしか考えられない。そしてタカの VV と衝突し、奴はこの JH から消えることになった・・・ あの 4 号線のデッドマンズ・コーナーで・・・

女 デッドマンズ・コーナー・・・

宮内 ...とにかくジュンなら、レインボーブリッジを作った彼なら、自立型の VV を作れたらと思う。でも、俺もあんたと同じように奴が JH を破壊するためにその VV を送り込んだとは思えない。奴はここを自由に走り回るためにその VV を作った。だが、何かのはずみでそいつが狂い始めた。・・・リミッターかもしれない。

女 リミッター？

宮内 実際、奴のリミッターは壊れやすい。奴が JH を去ることになったのもリミッターが吹っ飛んだせいだし、ポシエットがエンコしたのもそれがいかれて逆にエンジンに噛み込んだのが原因だ。

女 だから、殺人 VV の場合もそれが壊れてエンジン出力がプログラム自体の限界を越えたためだ・・・

宮内 それが殺人 VV 誕生の秘話って奴だ・・・ 好意的過ぎる解釈か？

女

宮内 いいか、俺たちがやらねばならないのは、誰かを断罪することじゃない。JH を破壊しようとしているウイルスを取り除くことなんだ・・・ 俺はただ、それだけを考えている・・・

暗転する。

16th June

舞台の上にかずえと宮内が離れて立っている。
かずえはハンドルを右に左にと器用に操っている。

宮内 ……どうだエボ IV は、かずえ?

かずえ 想像通り…想像以上かな。吸いつくように走ってる。さすが計算され尽くされた空力だよ、安定しててスピード出してる気がしない…

宮内 ステアリングはどうだ?

かずえ ちょっとオーバーステアかな。でも気になるほどじゃない。逆に鋭く切り込んでいく感じで…

宮内 どうやら、問題はないようだな…… きっとその VV なら、エボ IV なら殺人 VV に打ち勝つことができる。

かずえ きっとね。(一瞬目を伏せ)…タカちゃんから連絡は?

宮内 ない、なにも…

かずえ そうか…… でも、このシェイクダウンはタカちゃんが…

宮内 もう、いいんだ……しょうがないだろ? 鬼退治は俺とお前、それからホーリーだけだ…

「私もいるわよ。」

舞台袖で声がし、女が現れる。

宮内 恵美子さん…

女 今、私芝浦 PA にいます。鬼退治に参加させて下さい。

宮内 でも、あんたの VV じゃ…

女 宮さん、言ったでしょ。私の VV は化け物だって、フェラーリの上にポシェットの器のつけたみたいなもんだって! だから…

宮内 分かった、好きにしろ……ただ、指示があるまではそこにいろ。俺たちは殺人 VV の正確な位置を把握できない。だから絶対に動き回るな…

女 分かった…

と、唐突にホーリーのリモートチャット。

舞台後方に飛び出してくるホーリー。

ホーリー 宮さん! 宮さん、聞こえる?

宮内 どうした、ホーリー?

ホーリー 外環が… 外環が消えていく…

宮内 外環が消えてくって??

ホーリー まるで火のついた導火線みたいに火花上げながら消えていったる・・・
かずえ 落ち着いて、ホーリー。今何処にいるんだい？
ホーリー 新倉 PA にいる・・・ 凄い勢いなんだ！ 大泉の方から外環が消失してきてる。
消失速度は時速 50km ってところか。
かずえ 奴の所為かい？
ホーリー たぶん・・・ あたし今から PA 出て三郷方面に向かってみる。奴が前にいるの
か後ろにいるのか分からないけど・・・
宮内 ホーリー、気をつけろよ。かずえ、5 号池袋線を北上ホーリーに合流だ！ 俺も今
からそっちへ向かう。
女 宮さん、わたしは？
宮内 待機だ。
女 でも・・・
宮内 待機だ！
女 はい・・・

女を除く全員が飛び出していく。取り残される女。

女 JH がゆっくりと壊れていく。殺人 VV が JH を破壊していく・・・ 私はここに立っ
てレインボーブリッジを見ている。ここもやがては消失するの？ あの三郷 Jct.
のように目も眩む閃光を発生して・・・ ねえ、そうなるの？ 淳一君、あなたの造っ
たこの美しい景色まで、狂った殺人 VV は破壊するするの？ ねえ・・・

男が現れる。

女 淳一君。どうしたの？
男 無事免許取れたよ。それを報告しようと思って・・・
女 それでわざわざ教習所まで？ メール飛ばせばいいことじゃない。
男 そうなんだけど・・・(もじもじして)僕はもう教習所来ないだろ？ あまり会えなくな
るなと思って・・・
女 そんなことないわよ。メールでも電話でも連絡取れるでしょ？
男 うん・・・ でも、会う理由が必要になってくる。
女 淳一君、変だぞ。会いたってことが会う理由じゃない。
男 そうだね。じゃあ、僕はこれで・・・(と、帰ろうとするが、足を止めて)・・・実は中
古車を買ったんだ。たいした車じゃないけど、ちゃんと走る・・・
女 もう？
男 僕はもうすぐ転職だし、すぐ必要になるものだから・・・ それで・・・
女 それで？
男 (度胸を決めて)明日の日曜日、本物のレインボーブリッジを見に行かないか？
僕の車で、首都高にのって・・・ それから湾岸を飛ばして行きたいところ何処

へでも・・・これが新しい Jun's Heap。淳一のぼんこつ。でもこいつは本物の首都高を走る本物の車。

女 免許取りたてで首都高は危ないよ。

男 大丈夫さ。僕は首都高のすべてを知っている、細部にわたって・・・完ぺきな地図が頭の中に入ってるんだ。

女 でも、それは JH のことでしょ？

男 JH は完全なシミュレーションだよ。

女 でも、コンピューターの中と現実とは・・・

男 基本的には同じだよ。

女 ………

男 心配なんかいらぬ。だから、明日・・・

女 でも・・・（不意に思い出したように）わたし、これから教習あるから、もうこれで・・・

男 ………（女を見つめている）

女 （すまなそうに）・・・時間だから、もう行かせて。

男 ……分かった。日曜日は一人で乗ってみることにする。（明るく）そうだよ、やっぱり尻込みしちゃうよね、初心者の運転じゃ・・・

女 そんなじゃなくて・・・

男 いいんだ。じゃあ、教習がんばって・・・（帰ろうとする）

女 （制して）気を付けて、淳一君・・・

男 （笑って）ありがとう・・・

女 ……事故んなよ。

男 うん。大丈夫だよ・・・

退場する男。

立ちつくす女。

女 「淳一君、私やっぱり・・・やっぱり、ついて行こうかな・・・」私がやっとそう声に出せた時、淳一君はもう声の届かないところまで離れてしまっていた。追いかけるべきだった・・・でもしなかった。どうして？ どうしてしなかったの？ 別に淳一君の車に乗るのが怖かったわけでも嫌だったわけでもなかったのに・・・

そして、暗転。

17th June

飛び出してくるかずえと宮内、そしてホーリー。

ホーリー 宮さん! 殺人 VV の姿はどこにも見えないよ。前にも後ろにも…

宮内 見通しのきく外環だって言うのに…

かずえ 後ろ見て! 消失速度が速くなってきてるみたい。火花の勢いがさっきより増してる気がする…

宮内 なんてこったい、どうして外環が…

ホーリー もうすぐ川口 Jct.だよ… 一体奴はどこに?

唐突に天城のリモートチャット。飛び出してくる天城。

天城 てーことは、奴は川口線を南下中ってことだろ?

かずえ 天城君?

天城 そう。外環の草加から先はすでに消失してるしね…

宮内 天城君、今どこだ?

天城 S1 川口線千住新橋を北上中。もう奴は袋の鼠って訳だ!

ホーリー 袋の鼠?

宮内 どういうことだ?

天城 今、俺、上り線を北上してるんだよ。

ホーリー 上り線を北上って、まさか…

かずえ 逆走してるのかい。

天城 ピンポン、ご名答。

宮内 あほか、お前!?

天城 殺人 VV に正面から体当たりする。それしか手はねえんだよ… 俺のこのくそ VV じゃ奴に追いつくことすらできないんだ… だから、奴を倒すにはこれしかない…

宮内 くたばっちまうぞ!!

天城 上等じゃないの… チキンレースだよ、一世一代の… あの臆病者どもに見せてやるんだよ。

かずえ 臆病者?

天城 伊東、下田… あの根性無しどもにだよ!

宮内 やめとけ。いいか、JH を普通のテレビゲームだと思うなよ。お前だって分かってるだろ、JH の不気味なほどのリアルさを… これはいつのまにか、誰が意図したわけでもなくそうってしまった、リセットのまったく利かない魔のリアルシミュレーションなんだよ。

天城 いいんだ。俺はもう独りぼっちだし… とにかく、ケリをつけたいんだよ。このク

ソゲーに……

ホーリー なんでもいいから、止まりな、天城!

天城 嫌だね…… おっ、見えてきたぜ、うわさのあいつが……

かずえ やめな、天城!

天城 うるせえ! 引っ込んでろ! 俺は腰抜けじゃねえんだ! 覚悟しろよ、殺人 VV!!

高鳴るエンジンの咆哮。ガタガタ震えながら突進する天城。と、天城の顔色が変わる……

天城 ……ちょっと待て、違う! 奴は殺人 VV じゃ……

耳をつん裂くブレーキ音。平手打ちのように暗転。

18th June

舞台の上に鷹山。その傍らに座り込んでいる天城。
鷹山の86と天城のVVは正面衝突をぎりぎり回避できず、お釈迦となってしまう
ったようだ。ドライバーの二名は見ての通り無傷なようだが。
宮内、かずえそしてホーリーが飛び込んでくる…

かずえ 大丈夫、天城君?(天城に駆け寄る)
宮内 (立っている鷹山に気付き)タカ、お前…
鷹山 俺がナイトクルーズを楽しんでたら、突然こいつがチキンレース挑んできやが
んの… 俺を殺人 VV と見誤るとは、よほどおつむに血が上ってたんだろうよ。
宮内 チャット聞いてたのか?
鷹山 俺はフルタイム、リアルチャットオープンなもんでね…
ホーリー にしても、よく二人とも無事だったもんだね。
鷹山 臆病者同士のチキンレースなんてこんなもんさ… (天城に)だろ?
天城 どうすりゃいいんだよ、俺… VVも壊れちまったし… それに殺人 VV もどこ
かに消えちまった… もうだめだ… だめだよ、俺。怖くてブレーキ踏んじまっ
た…きっと相手が殺人 VV だっておんなじことだ…度胸がないんだ、やっぱ
り。
鷹山 そういうのを度胸とは言わないだろ、天城。俺なんか小便ちびったぞ、3ミリリッ
トルぐらい…
天城 弱虫は俺の方だ… だから、伊東も下田も俺のことなんかもう相手にしてくれ
ないんだ…

と、下田の声が聞こえる。
「そうだね、弱虫だね。…このままじゃ」

天城 ……?
下田 (舞台後方に飛び出して)そうだよ、このまま終わっちゃったら臆病者だよ。
天城 下田? お前、どうして?
下田 あの後、うなされちゃって… あの赤い目が布団の中まで追いかけてきて…
狂うかと思ったよ、一時は… でもそんな中ではっと気付いたんだ。あの暗く
赤い瞳、あれは赤外線ランプの漏れじゃないかって…
宮内 赤外線ランプ?
下田 そう、この JH の中でも渋滞情報のセンサーとして使われてるでしょ。疑似赤外
線が…
宮内 そうだな、疑似音波と一緒に使われている。
下田 殺人 VV は疑似赤外線で他の VV を追尾してるんだよ、正確にね… だとす

れば、その前照灯の光が渋滞情報のセンサーまで反応させるんじゃないかって思ったんだ… それで、伊東君に頼んで JH にエントリーしたんだ。

伊東 (いつのまにか下田の横に立っている)そして下田に言われるがまま渋滞情報掲示板を開いてみたら…閑古鳥が泣いてる今の JH じゃ有るはずのない渋滞の真っ赤な輝点、JH の中を縦横無尽に走り抜けていた…

天城 伊東…

伊東 天城、一緒に奴を倒そうぜ。俺はここで下田と一緒に殺人 VV の位置を逐一伝えるから… やっぱ、臆病者かな、俺？

天城 ………

宮内 下田君、今奴はどこに？

下田 C2 中央環状を葛西方面に南下中。位置は平井大橋と船堀橋の間…

伊東 時速 100 キロ程の低速クルージング。奴はまだ獲物にぶち当たってないんだ。

ホーリー 行くぜ！ さあ、天城あたしの VV に乗りな。本当の走りって言うのを見せて上げるよ…

宮内 どうするんだ、タカ？

鷹山 俺の 86 壊れちゃったしな… しょうがねえな… (と、エボ IV に歩み寄る)

かずえ (同じくエボ IV に歩み寄って) タカちゃん。そっちは運転席…

鷹山 分かってるよ。

かずえ タカちゃん…

鷹山 今これを動かさなきゃ、一生後悔しそうで…(乗り込む)いいねえ、やっぱり。86 もいいけど…

かずえ (助手席に乗り込んで)あの時よりもっとよくなってるよ、これ。

鷹山 ……イグニッション・コードは？

かずえ 変えるはずないだろ。あの時と同じ、T・A・K・A・A・S・N・O・1。

鷹・か Taka as No. 1

鷹山 (笑って)顔から火噴くほど、恥ずかしいな…

かずえ 顔じゃなくマフラーから火を吹く走りを見せとくれよ。

下田 殺人 VV は船堀橋を過ぎて、葛西 Jct.へ…

鷹山 急ぐぜ…

言うが早いか、轟音をとどろかせエボ IV は発進する。とともに舞台は暗転。

19th June

舞台の上に鷹山・かずえ、ホーリー・天城、宮内、そして下田・伊東がそれぞれ滑るように走り込んでくる。
ホーリー・天城にサス。

天城 速いなー、エボ IV。速すぎる・・・

ホーリー 速いのは、タカが運転してるからだよ。本当に速いのはタカなんだ・・・ 見てみな、あの吸いつくような走り・・・ C1 クレーギーレースを思い出しちゃうよ・・・

天城 C1 クレーギーレース？

ホーリー 新参者には分からないだろうけど・・・ JH が一番盛り上がったところの話さ。・・・あたしはいつもあいつの後ろばかり走ってた、追い抜くことはおろか追いつくことすらもできない状態だね。奴は滑るように走る。強引にねじ伏せるでもなく、とても自然に・・・ ほら、小菅のカーブだ。見な、奴のコーナリング！あの速度で、まったく速度を感じさせずに曲がっていくだろ・・・

天城 どんどん離されていく・・・

ホーリー ...いいもん見た、いいもん見ちまったよ、今夜は！ こっちはちょっと強引にタカのけつに食らいついていくからね・・・ とりあえず吐くなよ。

鷹山・かずえ、宮内にサス。

鷹山 宮さん？

宮内 なんだ？

鷹山 いいVV だな・・・

宮内 あんがと。

鷹山 宮さん？

宮内 なんだ？

鷹山 もう少し踏み込んでもいいか？

宮内 いいぞ。好きにしてくれ。シェイクダウンはもうかずえがやったから、少しいじめても大丈夫だろ・・・

下田・伊東にも明かりが当たる。

下田 殺人 VV は葛西 Jct.を右折、辰巳方面へ。

伊東 速度は相変わらず 100 キロ前後。

かずえ 奴との距離は 1 キロ足らず。この先の葛西曲がれば見えてくるはず・・・

鷹山 初顔合わせとまいますか・・・

宮内 タカは初めてなのか？

鷹山 一回俺の前を通りすぎたことがあるにはあったけどね・・・(と右カーブを切る)
天城 速えー! すげーよ、タカちゃん・・・
ホーリー こっちも負けませんで・・・(と強引にカーブを切る)
天城 のーわーっ、ちょっと吐きそう・・・
宮内 (カーブを切って)タカ、気を付けろ。奴はすぐそばだ!
鷹山 もう見えてるよ、宮さん。一気に近づけ!
かずえ (急加速に耐える)
鷹山 はじめまして殺人 VV、JH ちゃん。追い抜かせてもらおうぜ!

と、その刹那。雷鳴のような轟音がとどろき、舞台後方に赤い目が光り出す。
慌てふためく、みんな。

鷹山 なっ、なんだ? 今稲光が起こったぞ・・・
かずえ たかちゃん、奴が急加速して逃げてく!
宮内 スイッチが入ったか! タカ、追え!!
鷹山 分かってる!
天城 ちょちょちょ・・・ホーリー、高速道路が!!
ホーリー ...火花上げてる!
伊東 湾岸の様子がおかしい・・・ センサーがどんどんいかれていってる!
ホーリー 外環と同じだ! 湾岸が消失し始めてる! 宮さん! 急いで!! 飲み込まれちゃうよ!!!
宮内 わわわ、分かってる。(とこわばった顔で加速)

火花、煙、明滅する照明・・・

伊東 やばい! 湾岸が虫に食われるようにどンドン地図から消えていく。消失速度は
時速 160 キロ!!
下田 殺人 VV は辰巳 Jct.を直進、有明に向かっていきます。
宮内 有明・・・ちょっと待て!
下田 どうしました。
宮内 有明と言ったらレインボーブリッジ! しまった! 恵美子さんがいる!!
下田 恵美子さん!?
宮内 リモートチャット! 恵美子さん、恵美子さん

女が現れる。

女 はい。
宮内 今どこに?
女 レインボーブリッジに・・・

宮内 有明の方見てみろ!
女 花火?
宮内 火花だ! 殺人 VV の影響で湾岸に消失スプロールが起こってる! 早く、早く逃げ
るんだ…
女 湾岸? どうして? さっきまでは外環だったのに…
宮内 いいから、早く逃げろ! 広域チャットはオープンのままだ。いいな。
女 はい。(と走り去る)
宮内 タカ、レインボーブリッジに恵美子さんがいる。何としても殺人 VV を芝浦方面
には進ませるな! 直進させて東京港トンネルに突っ込ませるんだ! タカ、答え
ろ、タカ!!
鷹山 (声が震えている)…宮さん。
宮内 何やってるんだ、タカ!
鷹山 …宮さん、俺、こいつ知ってる。…このアクセルのタイミングの取り方、強引
なパッセージラインを描く走り方。こいつ、こいつ…
かずえ どうしたの、タカ? …宮さん、タカの様子が!
鷹山 …俺はいつもこいつの後ろを走っていたから分かる。宮さん、ジュンだ、ジュン
が帰ってきたんだ! (恐れとも、よろこびともつかない表情が凍りつく)
宮内 そうだ。そいつはジュンだ。だが、狂ったジュンなんだ!
鷹山 狂ったジュン?
ホーリー まずい。宮さん。殺人 VV が芝浦方面に!
宮内 タカ、ブロックだ! 奴をブロックしろ!!
天城 だめだ! 間に合わない!!
下田 殺人 VV、有明 Jct.を芝浦方面へ、レインボーブリッジに向かって進行中!
伊東 高速道の消失速度がアップ。推定時速 200 キロ!!

この伊東の叫びとともに、鷹山・かずえ、ホーリー・天城、宮内が舞台上から消え、代わりに女が登場する。

女 …バックミラーに巨大な花火が写ってる。でも、これは花火何かじゃない。あのレインボーブリッジが火花を上げて消えて行っているのだ… 淳一君が丸 2 年かけて造った橋。美しい夜景をもつその橋が、悲しげに悲鳴を上げながら消失していく。構築されたプログラムがランダムなノイズに還元されていく… 淳一君? 殺人 VV はほんとにあなたが作ったの? ねえ、じゃあ、どうして愛してやまないあの橋を殺人 VV が破壊するの?
下田 恵美子さん。逃げて!
伊東 後ろから殺人 VV が!

舞台後方で赤い二つの瞳がぎらぎら輝き出す。
女、アクセルを踏みつけるが、殺人 VV が後ろから激突する。

女 (もんどりうって、倒れそうになるが、どうにか態勢を立て直す)・・・目。二つの赤い目が悲しげに私を見つめている。スポイラーは千切れて弾けとび、ボディの至るところ傷だらけで・・・

鷹山・かずえが滑るように飛び込んでくる。

かずえ 恵美子さん、がんばって! 次の一ノ橋を左にもしかしたら荏原に・・・

女 だめ。左をブロックされてる。

かずえ じゃあ、その次の3号線も・・・

鷹山 ...奴は4号線に入る気だ。

かずえ 4号線って・・・

飛び込んでくる、ホーリー・天城そして宮内。

宮内 恵美子さん。アクセルをふかせ。ベタ踏みにするんだ! もしかしたら、リミッターが、あの壊れやすいリミッターが吹っ飛ぶかも知れない・・・

女 でも・・・

宮内 それしか逃れる術はない!!

下田 谷町を直進!

ホーリー 奴が走行ラインを右に変えた!

鷹山 やっぱりだ! 奴は・・・ジュンは4号線に入る気だ!!

宮内 奴はジュンじゃない! ジュンは死んだんだ!

かずえ 千代田トンネル突入! 三宅坂まですぐ!

鷹山 生きてる。俺の前を走ってる。

宮内 いいか、タカ。奴は死んだんだ。二度死んだんだ。JHの中でも、現実でも・・・

女 宮さん! 今なんて言ったの?

天城 奴はポシエット押しつけたまま、4号線に入るぞ!

宮内 タカ、危ない! 減速しろ!!

女 宮さん・・・あなた!

下田 三宅坂を左折!!

伊東 4号新宿線。そしてその先は・・・

全員 デッドマンズ・コーナー!!

騒音が止む。全員停止。そして女にサス。

女 ...渋谷区代々木神園町1番の先、首都高速4号線下り。関東陸運所属のタンクローリーがカーブを曲がりきれず横転、炎上した。積載物はガソリン16キロリットル、軽油4キロリットルの計20キロリットル。油が上下線80メートルに

わたり流失、炎がアスファルトを舐めた。ポンプ車 19 台、化学車 7 台、はしご車 5 台、救急車 3 台、ヘリコプター 1 台が出動。4 時間後に鎮火されるまでの間、その炎はタンクローリー一台および周辺の立ち木 10 本、そして後続の車両一台を焼き尽くした… タンクローリーの運転手と後続の車両を運転していた青年が焼死した。事故に巻き込まれた青年は免許を取得したばかりだった。立川市に住む会社員… 名前は原田淳一……

宮内 渋谷区代々木神園町 1 番の先、首都高速 4 号線… JH ではデッドマンズ・コーナーと呼ばれているところ。たくさんの VV がここでお釈迦になった。
女 でも、これは JH なんかにじゃなく、現実の首都高で起こった事故。淳一君はそこで短すぎる生涯を閉じた。
どうしていいのかわからなかった… だれかに教えてほしかった。
私は地元に住む中学の時の同級生に手当たり次第電話した…

ホーリー 「原田君って? …そう言えば、いたわね。で?」
伊東 「ああ、そう、いたいた… でも、原田って名前だったっけ? ……それほんと? 高速道路で??」
鷹山 「マジかよ! そいつが交通事故で死んだって? 俺ちよつとそいつに実家に電話してみるよ。折り返しかけ直すから… でも、ここだけの話、原田ってどんな奴だったっけ?」
かずえ 「お葬式は上行寺だって…そう、浅間神社の方の… 恵美子は来るの?」
女 その時私はなんて答えたのか思い出せない… でも、私は結局淳一君のお葬式には行かなかった。…ボストンバッグに着替えを詰め込み、身支度までしたのに、行かなかった… どうしてかわからない… 彼ともっと親密か、逆に もっと距離が取れていれば行けたかもしれないし、そんなこととはまるで関係のないことかもしれない… とにかく、寸でのところでまた私は立ち止まってしまった。跳び箱にべったりと手を突くように… いろいろなことが頭の中を駆け巡って、怖くなった。行けばよかった。行けばよかったのよ。こんなに後悔することになるなら… あの時、私は淳一君のコンピューターを抱き締めて、ただ、泣いていた… 誰もいないワンルームマンションの中で、明かりも点けずに… 一晩中、ただ、泣いていた… 悲しくて… それ以上にこんな自分自身に我慢ならなくて…

不意に騒音が戻ってくる。

鷹山 ジュンが死んだって…じゃあこの VV は?
宮内 ジュンの
女 淳一君の
全員 亡霊…
宮内 俺も人づてに、つい数日前に知ったんだ… 俺たちは互いにハンドルネーム

で呼びあう仲。現実のことなどまったく分からない。
かずえ あたしたちにとってはこの JH だけが現実・・・
宮内 だから、奴は俺たちに会いに来た。別れを言うために・・・

その時、がくと女が揺らぐ・・・ 轟音!!

女 その時だった。急に私の体重がなくなったかのような感覚が私を包んだ。殺人的な加速度が私を押しつける。
ホーリー 見て、ポシエットがどんどん加速していく。
宮内 リミッターが吹っ飛んだんだ・・・
下田 気を付けて、みんな。もうすぐ代々木の複合カーブだ!
女 代々木の複合カーブ、そしてそれに続くデッドマンズ・コーナー! それはあなたが二度死んだ場所! JH で、現実の中で・・・ そして、私が JH の中で一度も立ち入ったことのない場所 近づくことすら躊躇っていた場所。・・・だめ、私は走ることなんかできない!

女、ストップモーション。殺人 VV のエンジンの咆哮!!

天城 ...すげえ、ポシエットの加速。
ホーリー 殺人 VV もスピードを上げてる!!
下田 殺人 VV の速度、推定 250 キロ!
伊東 (感情を押さえきれず、悲痛に)C1、浜崎橋を中心に内回りは京橋まで外回りは谷町まで消失!
ホーリー クソ! だめだ、あたしの VV じゃ、これが限界だよ。追いつけない!
天城 大丈夫、エボ IV がいる。
かずえ タカちゃん、行くよ。
鷹山

かずえ タカちゃん!
鷹山 ...空力とマシンバランスはこっちの方が上なんだ。勝ってもおかしくはなかったんだ。全然おかしくはなかった。でも、あの時は勝っちゃいけなかったんだ・・・ 俺たちは永遠の 2 番手、そのほうがよかったんだ。

かずえ タカ・・・
鷹山 寄ってたかって、みんなが言う。JH のヒーローを俺が殺したって・・・ まるで犯罪者・・・ 非難の大合唱、フレイムメールの束、釈明の余地も無し・・・ 「あほ臭い奴等の群れ、JH・・・このちっぽけで安っぽい世界」・・・そう吐き捨てて、俺は走るのをやめた。

宮内 タカ、お前・・・
鷹山 走りさえしなければ、嫌な思いもしない。どうせこんな安っぽい世界・・・俺には関係ない。

ホーリー タカ!

鷹山 俺には関係ない・・・ 心の中で何度も叫んだ。(自嘲気味に、しかし力強く)俺には関係ない、俺には関係ないって。自分自身を納得させるために・・・

天城 タカちゃんはやっぱりだめだ。デッドマンズ・コーナーを走り抜けることなんてできない! かずえさん、運転を代わって・・・

かずえ ちょっと黙ってな、ガキ!!

鷹山 でも、納得なんて出来なかった・・・そして、気付いたんだ。この俺が一番安っぽいんだって・・・ ただ逃げることしかできなかった俺が・・・ だから、ケリつけなきゃ・・・ そう思った。いつかはケリをつけなきゃ・・・ ジュンとの勝負にも、そして自分自身にも・・・

宮内 ケリをつけなきゃな・・・ 行けるか、タカ?

鷹山 ああ。

宮内 怖くはないな・・・

鷹山 そりゃ、怖いに決まってるだろ! ...だけど、俺はエボ IV を信じてる。宮さんが1年かけて計算し尽くしたエアロダイナミクスを信じてる。

宮内 俺はお前を信じてるよ。

鷹山 宮さん、行かせてもらいます。安っぽくなんかはないよな・・・JH も、俺自身も・・・

かずえ 外苑を越えた。そろそろやってくるよ、殺人カーブの群れが・・・

鷹山 かずえちゃん、口閉じてな! 舌噛むぜ・・・

こっくり頷く、かずえ。爆発的なエンジンの咆哮!

女 ...私はここでまた立ち止まってしまう。また、跳び箱にべったりと手を突いて・・・ デッドマンズ・コーナーの直前で・・・ 私はいつでもこうなの? そして、また死にたいほどの後悔にさいなまれるの?

かずえ まずい、ポシエットが・・・

ホーリー 減速してる・・・

天城 殺人 VV が・・・

か・ホ ぶつかる!!

激突音! 火花、悲鳴、目潰しの照明!!

一瞬の暗転。

男の声・・・「ここでアクセルから力を抜いちゃだめだ。」

そして一筋のサス・・・ 女と男(純一)を浮かび上がらせる。

女 淳一君・・・

男 前を見て・・・ そして、シフトレバーを握る。

女がシフトレバーを握ると男の手がそれを易しく包み込むようにその上におか

れる。

男 佐藤さん、駆け抜けるんだ。立ち止まっちゃいけない。このVVはそんじょそこのVVとは違うんだ。さあ、シフトダウンして…そして、そこが抜けるまでアクセルを踏み込む!

エンジンの咆哮!! 壊れるぐらいの…

女 純一君…

男 シフトアップ!! …すごいな、あまりの速度にボディーが振動してる。さすが化け物と呼ばれただけはあるエンジンだ!

女 純一君。私、純一君に…

男 佐藤さん。左カーブだ!

タイヤの軋む音。

男 うまい、その調子だ。JHではこの連続コーナーはそんなに難所というわけじゃないんだ。ここでの本当の敵は自分自身の恐怖心だ。次の右カーブは切り込むように強引に曲がる!

タイヤの軋む音。

男 やった、佐藤さん! 曲がり切ったぞ!! (不意にはにかみがちに)…佐藤さん、ぼくはただJHの中を走り回ったただけなんだ、こんなふうに、みんなと一緒に。

女 分かってるわ、純一君。私、分かって…

男 佐藤さん、前を見て! …いいかい、この先がデッドマンズ・コーナーだ。殺人VVより速くすり抜けなきゃね。亡霊よりも速く… できるよ、亡霊になんかに負けちゃいけない。君は生きてるんだから… 人生は生きているもののため何だから…

女 私、純一君のこともっと… 時間さえもっとあつたら、純一君のこともっと…

男 時間なんかじゃないよ、きっと…

女 時間じゃない?

男 僕にもっと勇気があれば、佐藤さんともっといろんなこと話し合えたのにね…

女 純一君…

男 さあ、デッドマンズ・コーナーだ! このVVと自分自身を信じるんだ! ここを曲がり切れれば、イグジットポイントまで一直線…

女 ここを曲がり切れれば… ここを…

男 そう、ここを曲がり切れれば…

鷹山・かずえにサス。

かずえ デッドマンズ・コーナーまで 300 メートル。最後の直線だよ!
鷹山 直線でのやつの加速が甘い!
かずえ ボディーの損傷のせいかな? ポシエットとの距離が開いていく・・・
鷹山 行ける! かずえ、殺人 VV に、ジュンに並ぶぞ!! (加速) ブレーキングポイント
をぎりぎりまで・・・ そして、ジュンを抜き去る! このデッドマンズ・コーナー
で・・・
女 純一君。私はここを曲がりきる! 人生の中で最高の速度で・・・
鷹山 俺自身の最高のコーナリングで・・・
女・鷹 この思い出の詰まりすぎたカーブを・・・
デッドマンズ・コーナーを!!

エンジンの咆哮!!
火花!! 金属の擦れ合う金臭い匂い・・・
そして、激突音!!
暗転_尾を引く残響・・・

20th June

ゆっくりと舞台が明転していく・・・
女、鷹山、かずえ、ホーリー、天城、宮内が立ちつくしている。
その中心で燻ぶっている何か。殺人 VV の残骸である。
少し離れて下田と伊東も立っている・・・

天城 殺人 VV・・・
ホーリー タカが追い抜いた後、自分から激突していったように見えた・・・
かずえ 自分から？
天城 確かにそう見えた・・・ どうして・・・
宮内 ...魔のデッドマンズ・コーナー。ジュンの眠る場所としてもっとも相応しいところ
かもしれない。
かずえ 宮さん・・・
下田 天城君、大丈夫だった？
天城 ああ、どうにか・・・
伊東 よかったよ、ホント・・・
天城 ありがとうな、下田、伊東。お前らがいなかったら、どうなっていたか・・・
伊東 天城、俺、臆病者だから、下田がいなかったら、俺きっと・・・
天城 お互い様だろ。・・・とにかく、下田に感謝だな。
宮内 そうだ。下田君、ありがとう。
下田 (気まずそうに)宮さんまでそんな・・・
かずえ (鷹山が俯いているのを見て) タカちゃん・・・
鷹山 ん？ ジュンに黙禱だ・・・ ジュンの亡霊にかな？ ...奴は JH の中じゃ知らない
者がいないくらいの有名人だったのに、現実の奴の葬式にはこの中のだれ一
人行かなかった・・・
ホーリー あたし達はハンドルネームで呼び合う仲。誰もお互いに現実の姿を知らない。
宮内 それが JH だ。
鷹山 それが JH か・・・

全員、残骸に向かい黙禱する。
やがて、残骸が自動消去される・・・ なんの感慨もなしに・・・

女 ...純一君の幻を見たわ。純一君はさっきまで私の VV の助手席にいた。私の
となりに・・・
宮内 ジュンの幻？
女 カーブの手前でブレーキを踏みそうになった。そうしたら、純一君が現れて・・・
そして、こう言ったの、「亡霊なんかには負けるな」って・・・

鷹山 亡霊に負けるな・・・
女 ええ、そう言って・・・
宮内 それは幻なんかじゃなく・・・ ジュンが、いや純一君が、本当に会いに来たのかもしれない・・・
女 宮さん・・・

その時、唐突に伊東が叫ぶ。

伊東 まずい。JHの消失が止まっていない!
下田 ほんとだ! 殺人VVが壊れたのに、なぜ?
伊東 湾岸、9号深川線、7号小松川線、C1環状線はすべて消滅!
ホーリー なんたって、じゃあJHのすべてが・・・
下田 ええ、残るは6号三郷線の一部とみんながいる4号新宿線だけ・・・
伊東 それも消失が外苑を越えて参宮橋に迫ってる。
下田 天城君。みんなのすぐ近くまで消失が及んでる!
宮内 まずいな。みんな、高井戸のイグジットポイントに・・・
鷹山 JHがすべて消え去ろうとしてるのに、イグジットポイントか? JHが染みついちまってるな、俺たち・・・
天城 本当に無くなっちゃうのかな、JH? せっかく殺人VV倒したって言うのに・・・
宮内 しょうがねえだろ、こうなっちゃったもんは・・・
天城 もう会えないのかな、みんな・・・
かずえ あえるよ、きっとどこかで・・・
天城 ほんと?
宮内 ああ、ほんとだ。さあ、行こう。イグジットだ! このクソゲーにケリをつけようぜ・・・
鷹山 悲しくないのか、宮さん?
宮内 悲しい? 逆にすかっとしてるぜ。クソゲーの最後にしちゃ、上等すぎる幕切れじゃないか・・・
ホーリー タカ、最後の最後にいいものを見せてくれてありがとう。
鷹山 ホーリー、俺は見せ物じゃねえよ。
ホーリー カッコよかったぜ、ちびるほど・・・
鷹山 あんがと。
ホーリー 今度は現実で会おうぜ。ネットおかまじゃないことを証明しなくちゃ・・・
鷹山 そうだな。ちょー美人のおねいちゃんであることを期待してるぜ!
下・伊 参宮橋が消失。すぐ後ろまで来てる、早く!!
宮内 ...さあ、みんなJHの幕引きだ。VVに乗り込め!

みんな、それぞれVVに乗り込む。

鷹山 (ギアを入れ) さよなら、JH! こいつがラスト・ランだ!!

鷹山の GO!の合図で走り出すみんな。
幾多の VV のエンジン音…

女 …あの純一君は幻なんかじゃない。私には分かってる。だって、左手の手の甲にまだ純一君の温もりが残ってる。(手の甲を頬に寄せて)シフトレバーを握る私の手の上にあなたが優しくのせたその手の温もりが…
純一君。私は今 4 号新宿線を高井戸に向かって走ってる。高井戸_そこはイグジットポイント。JH ではそこで道は終わっているけど、現実の首都高では中央道に繋がっている。そして、その中央道の先にはあの小さな町がある。私と純一君が生まれ育ったあの町… 私はそこまで走っていける。今度は立ち止まることなく、きっと…

隊列を組み、JH を疾走する登場人物たち。
後方で火花が上がり始める。JH の消失がすぐ後ろまで迫っている…

鷹山 俺たちは今 4 号新宿線を高井戸に向かって走ってる。
ホーリー 高井戸_そこはイグジットポイント。
伊東 JH ではそこで道は終わるけど…
かずえ その先には現実が続いている…
天城 高井戸_そこは出口。
下田 JH はそこで終わりだけど…
宮内 俺たちはずっと走り続けるだろう。
女 その先に繋がっている長い道の上を…
全員 立ち止まることなく、きっと…

舞台後方で火花が上がり続けている。
真っ白なまばゆいばかりの光が溢れだし…
そして、登場人物すべてを包み込む。
イグジット!
だが、それは新たなる出発…

そして、JH がネットワーク上から完全に消失する。

JH_ジェイ・エイチ…完